

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
卒業演習 I	1	○	○	○	○						
情報処理演習	2	○		○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目
卒業演習 I	4-3データ構造とプログラミング基礎		

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	<ul style="list-style-type: none"> ・ビックデータ、IoT、AI、ロボット「社会人基礎力育成講座 I」(10回目) ・第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会「社会人基礎力育成講座 I」(10回目) ・データを起点としたものの見方、人間の知的活動を起点としたものの見方「卒業演習 I」(1回目)
	1-6	<ul style="list-style-type: none"> ・AI最新技術の活用例(深層生成モデル、敵対的生成ネットワーク、強化学習、転移学習など)「社会人基礎力育成講座 I」(11回目)
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	<ul style="list-style-type: none"> ・調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど「卒業演習 I」(2回目) ・1次データ、2次データ、データのメタ化「卒業演習 I」(2回目)「卒業演習 I」(2回目) ・構造化データ、非構造化データ(文章、画像/動画、音声/音楽など)「卒業演習 I」(2回目) ・データ作成(ビックデータとアノテーション)「卒業演習 I」(2回目) ・データのオープン化(オープンデータ)「卒業演習 I」(2回目)
	1-3	<ul style="list-style-type: none"> ・データ・AIの活用領域のひろがり(生産、消費、文化活動など)「卒業演習 I」(1回目) ・研究開発、調達、製造、物流、販売、マーケティング、サービスなど「卒業演習 I」(3回目) ・仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援、活動代替、新規生成など「卒業演習 I」(3回目)
(3) 様々なデータ利用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	<ul style="list-style-type: none"> ・特化型AIと汎用AI「卒業演習 I」(7回目) ・今のAIでできることとできないこと、AIとビックデータ「卒業演習 I」(7回目)
	1-5	<ul style="list-style-type: none"> ・データサイエンスのサイクル(課題抽出と定式化、データの取得・管理・加工、探索的データ解析、データ解析と推論)「卒業演習 I」(3回目) ・流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI利活用事例紹介「卒業演習 I」(3回目)

(4) 活用に当たっての様々な留意事項 (ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	<ul style="list-style-type: none"> ・ELSI「卒業演習 I」(10回目) ・個人情報保護「卒業演習 I」(10回目) ・データ倫理(データの捏造、改ざん、盗用、プライバシー保護)「卒業演習 I」(10回目) ・AI社会原則(公平性、説明責任、透明性、人間中心の判断)「卒業演習 I」(10回目) ・データバイアス、アルゴリズムバイアス「情報処理演習」(13回目) ・データ・AI活用における負の事例紹介「情報処理演習」(14回目)
	3-2	<ul style="list-style-type: none"> ・情報セキュリティ(気密性、完全性、可用性)「卒業演習 I」(10回目) ・匿名加工情報、暗号化「卒業演習 I」(10回目) ・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介「社会人基礎力育成講座 I」(4回目)
(5) 実データ・実課題 (学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	<ul style="list-style-type: none"> ・データの種類(量的変数、質的変数)「卒業演習 I」(4回目) ・代表値の性質の違い「卒業演習 I」(4回目) ・データのばらつき(分散、標準偏差)「卒業演習 I」(4回目) ・観測データに含まれる誤差の扱い「卒業演習 I」(4回目) ・相関と因果(相関係数、疑似相関、交絡)「卒業演習 I」(4回目) ・母集団と標本抽出(国勢調査、アンケート調査、全数調査、単純無作為抽出、層別抽出、多段抽出)「卒業演習 I」(4回目) ・クロス集計表、分割表、相関係数行列、散布図行列「卒業演習 I」(4回目) ・統計情報の正しい理解(誇張表現に惑わされない)「卒業演習 I」(4回目)
	2-2	<ul style="list-style-type: none"> ・データ表現(棒グラフ、折れ線グラフ、散布図、ヒートマップ)「卒業演習 I」(6回目)「情報処理演習」(11回目) ・データの比較「卒業演習 I」(6回目)「情報処理演習」(11回目) ・不適切なグラフ表現(チャートジャンク、不必要な視覚的要素)「卒業演習 I」(6回目) ・優れた可視化事例の紹介「卒業演習 I」(6回目)
	2-3	<ul style="list-style-type: none"> ・データ集計(和、平均)「卒業演習 I」(6回目) ・データ並び替え、ランキング「情報処理演習」(12回目) ・データ解析ツール(スプレッドシート)「卒業演習 I」(6回目) ・表形式のデータ(CSV)「卒業演習 I」(6回目)「情報処理演習」(12回目)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

- ・データサイエンス・AIに関する基礎的な知識・スキルを修得する。
- ・データサイエンス・AIの日常生活や社会における利活用の実際を知る。
- ・データサイエンス・AIに関する基礎的な知識・スキルを、食と健康、教育と児童福祉の分野に活用する。

【参考】

⑫ 生成AIに関連する授業内容 ※該当がある場合に記載

教育プログラムを構成する科目に、「数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)モデルカリキュラム改訂版」(2024年2月 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム)において追加された生成AIに関連するスキルセットの内容を含む授業(授業内で活用事例などを取り上げる、実際に使用してみるなど)がある場合に、どの科目でどのような授業をどのように実施しているかを記載してください。

※本項目は各大学の実践例を参考に何うものであり、認定要件とはなりません。

講義内容
令和5年度は、「社会人基礎力講座 I」(9回目)において生成AIの活用事例を簡単に扱った。令和6年度は、「卒業演習 I」(7回目)において生成AIの種類と特徴について学び、生成AIを利用した文章等作成の活動を行う予定である。

プログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度 年度

②大学等全体の男女別学生数 男性 人 女性 人 (合計 人)

③履修者・修了者の実績

学部・学科名称	学生数	入学定員	収容定員	令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度		令和元年度		平成30年度		履修者数合計	履修率
				履修者数	修了者数	履修者数	修了者数										
食物栄養科	63	80	180	63	55											63	35%
保育科	131	150	300	131	124											131	44%
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
合計	194	230	480	194	179	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	194	40%

大学等名 山梨学院短期大学

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

- ① 全学の教員数 (常勤) 35 人 (非常勤) 40 人
- ② プログラムの授業を教えている教員数 25 人
- ③ プログラムの運営責任者
 (責任者名) 深澤早苗 (役職名) 教務部長・DAILIES専門委員会座長

- ④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)
山梨学院短期大学カリキュラム委員会数理・データサイエンス・AI教育推進(DAILIES)専門委員会
 (責任者名) 深澤早苗 (役職名) 教務部長・DAILIES専門委員会座長

- ⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称
山梨学院短期大学カリキュラム委員会数理・データサイエンス・AI教育推進(DAILIES)専門委員会規程

- ⑥ 体制の目的
カリキュラム委員会の下に配置した数理・データサイエンス・AI教育推進(DAILIES: Data science and AI Literacy for Excellent Specialists Program)専門委員会(以下、「DAILIES専門委員会」という。)は、本学学生の数理・データサイエンス・AIに関する関心を高めつつそれらを活用する基礎的及び実践的な能力を育成する教育プログラムを体系的に推進・実施することを目的とする。具体的には、本学の数理・データサイエンス・AI教育プログラムである「DAILIES」の企画立案・運営・実施・評価改善・維持管理等の業務を行う。本委員会はカリキュラム委員会の下に配置され連携してプログラムの維持管理にあたる。プログラムの実施にあたっては、FD(ファカルティ・ディベロップメント)委員会、自己点検・評価委員会、学外助言評価委員会、就職・キャリア支援委員会と連携する。FD委員会は授業評価の実施や学内教員を対象とした数理・データサイエンス・AI教育プログラムに関するFD研修の企画、運営を行う。学外からの意見聴取については、学外助言評価委員会における学外委員からの直接的な意見聴取や、就職・キャリア支援委員会で実施する就職先調査等で行う。プログラムの総合的な自己点検・評価は、DAILIES専門委員会と自己点検・評価委員会で行う。

- ⑦ 具体的な構成員
カリキュラム委員会DAILIES専門委員会(令和5(2023)年度)
 座長 深澤 早苗 食物栄養科教授・教務部長・カリキュラム委員会委員長
 副座長 中野 隆司 保育科教授
 委員 萱嶋 泰成 食物栄養科教授
 委員 鈴木 睦代 食物栄養科専任講師
 委員 奥山 賢一 保育科特任教授
 委員 竹中麻美子 保育科准教授
 委員 川上 英明 保育科准教授
 委員 荻原 千史 保育科専任講師

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和5年度実績	40%	令和6年度予定	100%	令和7年度予定	100%
令和8年度予定	100%	令和9年度予定	100%	収容定員(名)	480

具体的な計画

本プログラム「DAILIES」は、食物栄養科、保育科1年生全員が履修する。プログラムを構成する「卒業演習Ⅰ」及び「社会人基礎力育成講座Ⅰ」は、本学の卒業要件科目(必修科目)に位置付けられているため、1年生全員が必ず履修することになっている。「情報処理演習」は、保育科は教職必修のため、全員が必ず履修することになっている。一方、食物栄養科においてはこの科目は「選択科目」となっているが、PC操作技術の向上を含め、食と健康の専門分野におけるデータサイエンスの意義を入学ガイダンスで説明して全員が履修するよう指導している。本プログラムは令和5(2023)年度に開始され、令和5年度1年生は全員履修した(収容定員の約40%が履修した)。令和6(2024)年度も全1年生が履修する予定であり、履修率(履修者数/在籍者数)100%の予定である。同様に、令和7(2025)年度以降も履修率は100%の予定である。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

本プログラムを構成する「卒業演習Ⅰ」及び「社会人基礎力育成講座Ⅰ」は卒業要件科目(必修科目)であるため、全1年生が必ず受講する計画となっている。オンデマンド教材で繰り返し学修できる体制を整えるとともに、「卒業演習Ⅰ」の担当教員が小グループで指導に当たりきめ細かな学修支援を行う。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

本プログラムの履修については、入学後の各科で実施するガイダンス指導において、学生に周知する。また、本学のホームページや学生が使用するLMS(Learning Management System)「WebClass」においても周知する。さらに、カリキュラムマップを用いた説明を行うとともに、履修に当たって「卒業演習Ⅰ」での履修指導時にも周知する。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

オンデマンド教材で繰り返し学修できる体制を整えるとともに、「卒業演習Ⅰ」の担当教員が小グループで指導に当たりきめ細かな学修支援を行う。修得サポートについては、学内のPCルーム(2室)は、授業時間以外は自由に使用できるよう整備している。また、本学はBYOD(Bring Your Own Device)推奨しているが、希望する学生には在学中にiPadを貸与している。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

授業担当教員は、授業時間内に講義やパソコンを使った演習、理解度確認テスト、課題添削のフィードバック、質問の受け付けを行う。LMS「WebClass」のメール機能を使用して、授業外で授業担当教員と直接やり取りができる体制を整えている。「卒業演習Ⅰ」は、少人数単位で、配信される動画を担当教員とともに視聴しながら学習する形態をとる。「卒業演習Ⅰ」の担当教員は、「情報処理演習」や「社会人基礎力育成講座Ⅰ」の担当教員を補助する役割を担っており、学生からの質問に対応し、「情報処理演習」や「社会人基礎力育成講座Ⅰ」の担当教員との連絡窓口ともなっている。動画教材は、授業を欠席した場合には自宅にて視聴が可能であり、学生の学修機会が確保されている。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

DAILIES専門委員会/自己点検・評価委員会

(責任者名) 深澤早苗/羽畑祐吾

(役職名) 教務部長・DAILIES専門委員会座長/自己点検・評価委員会委員長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	本プログラム「DAILIES」は、「情報処理演習」、「卒業演習Ⅰ」、「社会人基礎力育成講座Ⅰ」の3科目で構成され、令和5(2023)年度から新入生を対象としてスタートした。同年度の対象学生数194名に対し履修者数は194名(1年生在籍者全員:履修率100%)、本プログラム修了者は179名であった。対象学生数194名に対する本プログラムの修了率は92.3%と非常に高かった。7.7%が修了に至らなかったが、その理由は対象者の退学または休学のほか、「情報処理演習」の単位未修得によるものである。プログラムの履修・修得状況は、LMS「WebClass」の活用により、各授業終了後の復習テストの結果や課題提出状況で確認することができる。
学修成果	学修成果は、到達度テストと授業評価アンケートで確認できる。令和5(2023)年度の到達度テストの結果は、正答率73.8%であった。授業評価アンケートにおいて「数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な知識・スキルを習得する。」に「達成できた」と回答した割合は89.7%であった。同様に「データサイエンス・AIの日常生活や社会における利活用の実際を知る。」に「達成できた」と回答した割合は93.4%、「データサイエンス・AIに関する基礎的な知識・スキルを専門職の分野(食と健康または教育と児童福祉)に活用する。」に「達成できた」と回答した割合は90.3%であった。以上の結果から、本プログラムが目標とした学修成果は獲得できたと考える。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	上述の通り、本プログラムの到達度テストの正答率は73.8%であり、内容の理解度は高かった。授業評価アンケートでは、「数理・データサイエンス・AIを学ぶことの意義を理解した」と回答した学生の割合は90.3%、「授業内容の分野に興味・関心が持てた」と回答した学生の割合は84.9%と高かった。自由記述では、「AIについて理解が深まった」、「前よりパソコンが使えるようになった」、「回ごとに内容を分けて少しずつ説明してくれたのでよかった」といった内容のものが多くみられた。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	本プログラム終了時に授業評価アンケートで、「後輩等、他の学生にこのプログラムを推奨したいと思うか」を質問したところ、「そう思う」との回答が49.7%、「ややそう思う」との回答が30.9%であり、約80%の学生が推奨したいと回答していた。既履修学生の授業評価の結果は本学ホームページで公開しており、後輩学生は閲覧することができる。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
<p>全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況</p>	<p>本プログラムは、学生全員の履修を前提としており、今後もこの履修体制を継続していく。本学が養成する栄養士・製菓衛生師・保育士・幼稚園教諭の専門職では、さまざまな業務を遂行するためにデータサイエンスの知識やスキルの修得が不可欠である。本学が目指す「真に社会に貢献する専門職養成」に本プログラムでの学びが必要であることを履修ガイダンス等で学生に周知し、今後も効果的なプログラム運営に努めたい。</p>

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
<p>学外からの視点</p> <p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p> <p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>本プログラムは令和5(2023)年度から開始しており、履修者は全て1年生であったため修了者の中からまだ卒業生は出ていない。本学の卒業生は、食物栄養科では約6割が食と健康分野の専門職に、保育科では約9割が教育・保育・福祉分野の専門職に就く。今後、それぞれの専門職において、本プログラムで学んだことを活用してくれることが期待される。卒業生及び就職先の評価については、令和7(2025)年度に実施される令和6(2024)年度の卒業生を対象とする卒業生調査・就職先調査に本プログラムに関する評価項目を含める予定としている。</p> <p>本学では「学外助言評価委員会」を設置し、食と保育に関わる地元山梨県の専門家や学識経験者から学修内容や手法に対する意見や要望を直接に聴取している。当該委員会の委員は、本学が養成する栄養士・製菓衛生師・保育士・幼稚園教諭の関連団体、社会福祉協議会や高等学校の代表者から選出されている。この委員会で得られた意見は、全学的に検討し、授業改善に役立てる仕組みが構築されている。本プログラムについては、令和4(2022)年度に意見聴取を行いプログラム構築に役立てた。また、令和5(2023)年度の意見聴取では、具体的な手法について助言を得た。令和6(2024)年度の委員会では、令和5(2023)年度に実施した本プログラムの自己点検・評価の結果を附議し、意見を求める予定である。</p>
<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>本プログラムでは学生が理解しやすい資料や教材等を活用している。特に、学生が資格取得を目指す専門分野を題材にした資料・教材を多く取り入れ、学生の興味を高く保つよう心がけている。授業終了後には復習テストを実施して、学修内容が身に付いていることの達成感をもてる工夫を行っている。授業は、ディスカッションや自分で調べて発表する等のプレゼンテーション技法を取り入れて、グループで楽しみながら学ぶことができるよう工夫を行っている。本プログラム終了時の授業評価アンケートで、「数理・データサイエンス・AIを活用することを楽しく思ったか」を尋ねたところ、「そう思う」50.3%、「ややそう思う」32.1%であった。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	<p>本プログラムは、内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とするために、「専門演習Ⅰ」をはじめとして他のプログラム関係科目においても少人数単位で実施するグループ活動を多く取り入れている。また、プログラム開始前の令和4(2022)年度以前から学外の研修会に参加し、数理・データサイエンス・AI教育推進に関するFD研修会を継続的に開催している。さらに、数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム協力校である山梨大学他県内7大学と連携し授業設計研究会を開催するなど「分かりやすい」授業の構築に努めている。</p>

科目名	情報処理演習		
サブタイトル	情報リテラシーの基礎的スキルを学ぶ		
担当者名	本長健介		
学科	食物栄養科栄養士コース		
開講期	前期	単位数	2単位
履修系統図番号	4N-1605		
必修、選択の別	選択		
授業形態	演習	科目区分	専門教育科目
到達目標			
1. 情報モラルについて理解する。 2. コンピュータによる情報処理の概念が理解できる。 3. インターネットの活用において、必要な情報を探索・取得・選別できる。 4. プレゼンテーション・情報のアウトプットができる。			
授業概要			
本演習では、コンピュータによる情報処理の基礎知識と技能習得をおこなう。現在の複雑多様化する社会の中で、共通して必要とされる基礎的能力の一つにコンピュータ操作が挙げられ、中でも基本的で必要不可欠な技能が情報処理である。授業では社会活動によりスムーズに参加できるよう、実際にポピュラーなアプリケーションソフトを使い実習を通して情報処理技術を学習する。 本授業は、状況によって、オンライン教材等を用いた遠隔授業を行います。			
学習内容 1回		学習のポイント(事前事後の学習を含む) 1回	
授業環境について全般		ログイン・メール送受信・出欠管理等、ツール環境理解 事前学習：ガイダンス資料に目を通し、本学のIT環境を頭に入れておく(30分) 事後学習：授業で理解できなかった事などあれば質問をして理解に努める(60分)	
学習内容 2回		学習のポイント(事前事後の学習を含む) 2回	
Windowsの基本操作		Windowsとアプリケーションソフト 事前学習：Windowsで、どのようなソフトが使えるのか調べておく(30分) 事後学習：授業で使ったソフトを後日自分だけで試してみる(60分)	
学習内容 3回		学習のポイント(事前事後の学習を含む) 3回	
ワープロソフト①		文字入力の基礎・ショートカット 事前学習：コンピュータにおけるショートカットという言葉をあらかじめ調べておく(30分) 事後学習：授業で使った教材でもう一度ショートカットを使い自分のものにする(60分)	
学習内容 4回		学習のポイント(事前事後の学習を含む) 4回	
ワープロソフト②		図形入力の基礎・オーシェイプ 事前学習：Windowsのオーシェイプとは何か調べておく(30分) 事後学習：オーシェイプの性質・用法をまとめる(60分)	
学習内容 5回		学習のポイント(事前事後の学習を含む) 5回	
ワープロソフト③		図形(地図) 事前学習：図形描画の方法について調べておく(30分) 事後学習：授業とは違ったタイプの図形も作ってみる(60分)	

学習内容 6 回	学習のポイント(事前事後の学習を含む) 6 回
ワープロソフト④	<p>文書構成の技法・レポート・論文の書き方</p> <p>事前学習：公文書やお知らせのような印刷物を何種類か事前に見ておく(30分) 事後学習：授業で作成した資料を、再度自分で作成する(60分)</p>
学習内容 7 回	学習のポイント(事前事後の学習を含む) 7 回
プレゼンテーション①	<p>プレゼンテーション技法の基本</p> <p>事前学習：パワーポイントというソフトについて概略を調べておく(30分) 事後学習：授業で作成したものを自分だけで作れるようにする(60分)</p>
学習内容 8 回	学習のポイント(事前事後の学習を含む) 8 回
プレゼンテーション②	<p>データの取り込み・活用</p> <p>事前学習：自分の持っているデジタルデータをパソコンに取り込む方法を調べておく(30分) 事後学習：授業で使ったものとは別のものを使って授業と同様にできるか確認する(60分)</p>
学習内容 9 回	学習のポイント(事前事後の学習を含む) 9 回
表計算ソフト①	<p>表計算ソフトの基本動作・セルと番地の概念</p> <p>事前学習：表計算ソフトにおける、絶対アドレス・相対アドレスについてあらかじめ調べておく(30分) 事後学習：授業で作成した資料を、再度自分で作成する(60分)</p>
学習内容 10 回	学習のポイント(事前事後の学習を含む) 10 回
表計算ソフト②	<p>計算方法について・四則演算・簡単な関数</p> <p>事前学習：四則演算とは何か、関数とは何か調べておく(30分) 事後学習：自信の生活の中で必要な簡単な計算を、表計算で計算してみる(60分)</p>
学習内容 11 回	学習のポイント(事前事後の学習を含む) 11 回
表計算ソフト③	<p>情報の分析評価と数値のグラフ化(棒グラフ、折れ線グラフ)</p> <p>事前学習：グラフの種類にはどんなものが有るか調べておく(30分) 事後学習：授業で使ったデータで授業とは別のグラフを作成する(60分)</p>
学習内容 12 回	学習のポイント(事前事後の学習を含む) 12 回
表計算ソフト④	<p>データベース活用法(データ集計・並び替え・フィルター)</p> <p>事前学習：エクセルにおけるフィルター機能、ソート機能について調べておく(30分) 事後学習：自分に関係のあるデータを使って授業での機能を確認する(60分)</p>
学習内容 13 回	学習のポイント(事前事後の学習を含む) 13 回
インターネット①	<p>情報の検索・公開データの閲覧・活用</p> <p>事前学習：検索エンジンの種類について調べておく(30分) 事後学習：検索方法について自分で復習する(60分)</p>
学習内容 14 回	学習のポイント(事前事後の学習を含む) 14 回
インターネット②	ネットワーク活用の基礎と情報モラル

	<p>事前学習：コンピュータネットワークについて概略を理解しておく（30分） 事後学習：実際のネットワークを使って授業内容を確認する（60分）</p>
学習内容15回	学習のポイント(事前事後の学習を含む)15回
定期試験（実技試験）	<p>コンピュータ上で出題、コンピュータ上で回答</p> <p>事前学習：これまで授業で経験した事を再度確認しておく（30分） 事後学習：試験でできなかった問題は必ずできるようにしておく（60分）</p>
学習内容16回	学習のポイント(事前事後の学習を含む)16回
総括講義	<p>本演習のまとめ 授業評価の実施 試験の答え合わせ・採点チェック</p> <p>事前学習：これまでの授業内容をまとめた資料を自分で作成しておく（30分） 事後学習：どの分野が自分にとって苦手だったか振り返って復習する（60分）</p>
成績評価の方法・基準	
定期試験（実技試験）100%	
教科書・参考文献	
講義のはじめに指示する。	
履修条件	
なし	

科目名	情報処理演習		
サブタイトル	情報リテラシーの基礎的スキルを学ぶ		
担当者名	本長健介		
学科	食物栄養科パティシエコース		
開講期	前期	単位数	2単位
履修系統図番号	4P-1605		
必修、選択の別	選択		
授業形態	演習	科目区分	専門教育科目
到達目標			
1. 情報モラルについて理解する。 2. コンピュータによる情報処理の概念が理解できる。 3. インターネットの活用において、必要な情報を探索・取得・選別できる。 4. プレゼンテーション・情報のアウトプットができる。			
授業概要			
本演習では、コンピュータによる情報処理の基礎知識と技能習得をおこなう。現在の複雑多様化する社会の中で、共通して必要とされる基礎的能力の一つにコンピュータ操作が挙げられ、中でも基本的で必要不可欠な技能が情報処理である。授業では社会活動によりスムーズに参加できるよう、実際にポピュラーなアプリケーションソフトを使い実習を通して情報処理技術を学習する。 本授業は、状況によって、オンライン教材等を用いた遠隔授業を行います。			
学習内容 1回		学習のポイント(事前事後の学習を含む) 1回	
授業環境について全般		ログイン・メール送受信・出欠管理等、ツール環境理解 事前学習：ガイダンス資料に目を通し、本学のIT環境を頭に入れておく(30分) 事後学習：授業で理解できなかった事などあれば質問をして理解に努める(60分)	
学習内容 2回		学習のポイント(事前事後の学習を含む) 2回	
Windowsの基本操作		Windowsとアプリケーションソフト 事前学習：Windowsで、どのようなソフトが使えるのか調べておく(30分) 事後学習：授業で使用したソフトを後日自分だけを使ってみる(60分)	
学習内容 3回		学習のポイント(事前事後の学習を含む) 3回	
ワープロソフト①		文字入力の基礎・ショートカット 事前学習：コンピュータにおけるショートカットという言葉あらかじめ調べておく(30分) 事後学習：授業で使った教材でもう一度ショートカットを使い自分のものにする(60分)	
学習内容 4回		学習のポイント(事前事後の学習を含む) 4回	
ワープロソフト②		図形入力の基礎・オーシェイプ 事前学習：Windowsのオーシェイプとは何か調べておく(30分) 事後学習：オーシェイプの性質・用法をまとめる(60分)	
学習内容 5回		学習のポイント(事前事後の学習を含む) 5回	
ワープロソフト③		図形(地図) 事前学習：図形描画の方法について調べておく(30分) 事後学習：授業とは違ったタイプの図形も作ってみる(60分)	

学習内容 6 回	学習のポイント(事前事後の学習を含む) 6 回
ワープロソフト④	<p>文書構成の技法・レポート・論文の書き方</p> <p>事前学習：公文書やお知らせのような印刷物を何種類か事前に見ておく(30分) 事後学習：授業で作成した資料を、再度自分で作成する(60分)</p>
学習内容 7 回	学習のポイント(事前事後の学習を含む) 7 回
プレゼンテーション①	<p>プレゼンテーション技法の基本</p> <p>事前学習：パワーポイントというソフトについて概略を調べておく(30分) 事後学習：授業で作成したものを自分だけで作れるようにする(60分)</p>
学習内容 8 回	学習のポイント(事前事後の学習を含む) 8 回
プレゼンテーション②	<p>データの取り込み・活用</p> <p>事前学習：自分の持っているデジタルデータをパソコンに取り込む方法を調べておく(30分) 事後学習：授業で使ったものとは別のものを使って授業と同様にできるか確認する(60分)</p>
学習内容 9 回	学習のポイント(事前事後の学習を含む) 9 回
表計算ソフト①	<p>表計算ソフトの基本動作・セルと番地の概念</p> <p>事前学習：表計算ソフトにおける、絶対アドレス・相対アドレスについてあらかじめ調べておく(30分) 事後学習：授業で作成した資料を、再度自分で作成する(60分)</p>
学習内容 10 回	学習のポイント(事前事後の学習を含む) 10 回
表計算ソフト②	<p>計算方法について・四則演算・簡単な関数</p> <p>事前学習：四則演算とは何か、関数とは何か調べておく(30分) 事後学習：自信の生活の中で必要な簡単な計算を、表計算で計算してみる(60分)</p>
学習内容 11 回	学習のポイント(事前事後の学習を含む) 11 回
表計算ソフト③	<p>情報の分析評価と数値のグラフ化(棒グラフ、折れ線グラフ)</p> <p>事前学習：グラフの種類にはどんなものが有るか調べておく(30分) 事後学習：授業で使ったデータで授業とは別のグラフを作成する(60分)</p>
学習内容 12 回	学習のポイント(事前事後の学習を含む) 12 回
表計算ソフト④	<p>データベース活用法(データ集計・並び替え・フィルター)</p> <p>事前学習：エクセルにおけるフィルター機能、ソート機能について調べておく(30分) 事後学習：自分に関係のあるデータを使って授業での機能を確認する(60分)</p>
学習内容 13 回	学習のポイント(事前事後の学習を含む) 13 回
インターネット①	<p>情報の検索・公開データの閲覧・活用</p> <p>事前学習：検索エンジンの種類について調べておく(30分) 事後学習：検索方法について自分で復習する(60分)</p>
学習内容 14 回	学習のポイント(事前事後の学習を含む) 14 回
インターネット②	ネットワーク活用の基礎と情報モラル

	<p>事前学習：コンピュータネットワークについて概略を理解しておく（30分） 事後学習：実際のネットワークを使って授業内容を確認する（60分）</p>
学習内容 15回	学習のポイント(事前事後の学習を含む) 15回
定期試験（実技試験）	<p>コンピュータ上で出題、コンピュータ上で回答</p> <p>事前学習：これまで授業で経験した事を再度確認しておく（30分） 事後学習：試験でできなかった問題は必ずできるようにしておく（60分）</p>
学習内容 16回	学習のポイント(事前事後の学習を含む) 16回
総括講義	<p>本演習のまとめ 授業評価の実施 試験の答え合わせ・採点チェック</p> <p>事前学習：これまでの授業内容をまとめた資料を自分で作成しておく（30分） 事後学習：どの分野が自分にとって苦手だったか振り返って復習する（60分）</p>
成績評価の方法・基準	
定期試験（実技試験）100%	
教科書・参考文献	
講義のはじめに指示する。	
履修条件	
なし	

科 目 名	情報処理演習		
サブタイトル	情報リテラシーの基礎的スキルを学ぶ		
担 当 者 名	本長健介		
学 科	保育科		
開 講 期	前期	単 位 数	2 単位
履修系統図番号	4C-1605		
必修、選択の別	選択、教職必修(幼)、教職必修(小)		
授 業 形 態	演習	科目区分	専門教育科目
到達目標			
1. 情報モラルについて理解する。 2. コンピュータによる情報処理の概念が理解できる。 3. インターネットの活用において、必要な情報を探索・取得・選別できる。 4. プレゼンテーション・情報のアウトプットができる。			
授業概要			
本演習では、コンピュータによる情報処理の基礎知識と技能習得をおこなう。現在の複雑多様化する社会の中で、共通して必要とされる基礎的能力の一つにコンピュータ操作が挙げられ、中でも基本的で必要不可欠な技能が情報処理である。授業では社会活動によりスムーズに参加できるよう、実際にポピュラーなアプリケーションソフトを使い実習を通して情報処理技術を学習する。 本授業は、状況によって、オンライン教材等を用いた遠隔授業を行います。			
学習内容 1 回		学習のポイント(事前事後の学習を含む) 1 回	
授業環境について全般		ログイン・メール送受信・出欠管理等、ツール環境理解 事前学習：ガイダンス資料に目を通し、本学のIT環境を頭に入れておく(30分) 事後学習：授業で理解できなかった事などあれば質問をして理解に努める(60分)	
学習内容 2 回		学習のポイント(事前事後の学習を含む) 2 回	
Windowsの基本操作		Windowsとアプリケーションソフト 事前学習：Windowsで、どのようなソフトが使えるのか調べておく(30分) 事後学習：授業で使用したソフトを後日自分だけを使ってみる(60分)	
学習内容 3 回		学習のポイント(事前事後の学習を含む) 3 回	
ワープロソフト①		文字入力の基礎・ショートカット 事前学習：コンピュータにおけるショートカットという言葉のあらかじめ調べておく(30分) 事後学習：授業で使った教材でもう一度ショートカットを使い自分のものにする(60分)	
学習内容 4 回		学習のポイント(事前事後の学習を含む) 4 回	
ワープロソフト②		図形入力の基礎・オーシェイプ 事前学習：Windowsのオーシェイプとは何か調べておく(30分) 事後学習：オーシェイプの性質・用法をまとめる(60分)	
学習内容 5 回		学習のポイント(事前事後の学習を含む) 5 回	
ワープロソフト③		図形(地図) 事前学習：図形描画の方法について調べておく(30分) 事後学習：授業とは違ったタイプの図形も作ってみる(60分)	

学習内容 6 回	学習のポイント(事前事後の学習を含む) 6 回
ワープロソフト④	<p>文書構成の技法・レポート・論文の書き方</p> <p>事前学習：公文書やお知らせのような印刷物を何種類か事前に見ておく(30分)</p> <p>事後学習：授業で作成した資料を、再度自分で作成する(60分)</p>
学習内容 7 回	学習のポイント(事前事後の学習を含む) 7 回
プレゼンテーション①	<p>プレゼンテーション技法の基本</p> <p>事前学習：パワーポイントというソフトについて概略を調べておく(30分)</p> <p>事後学習：授業で作成したものを自分だけで作れるようにする(60分)</p>
学習内容 8 回	学習のポイント(事前事後の学習を含む) 8 回
プレゼンテーション②	<p>データの取り込み・活用</p> <p>事前学習：自分の持っているデジタルデータをパソコンに取り込む方法を調べておく(30分)</p> <p>事後学習：授業で使ったものとは別のものを使って授業と同様にできるか確認する(60分)</p>
学習内容 9 回	学習のポイント(事前事後の学習を含む) 9 回
表計算ソフト①	<p>表計算ソフトの基本動作・セルと番地の概念</p> <p>事前学習：表計算ソフトにおける、絶対アドレス・相対アドレスについてあらかじめ調べておく(30分)</p> <p>事後学習：授業で作成した資料を、再度自分で作成する(60分)</p>
学習内容 10 回	学習のポイント(事前事後の学習を含む) 10 回
表計算ソフト②	<p>計算方法について・四則演算・簡単な関数</p> <p>事前学習：四則演算とは何か、関数とは何か調べておく(30分)</p> <p>事後学習：自信の生活の中で必要な簡単な計算を、表計算で計算してみる(60分)</p>
学習内容 11 回	学習のポイント(事前事後の学習を含む) 11 回
表計算ソフト③	<p>情報の分析評価と数値のグラフ化(棒グラフ、折れ線グラフ)</p> <p>事前学習：グラフの種類にはどんなものが有るか調べておく(30分)</p> <p>事後学習：授業で使ったデータで授業とは別のグラフを作成する(60分)</p>
学習内容 12 回	学習のポイント(事前事後の学習を含む) 12 回
表計算ソフト④	<p>データベース活用法(データ集計・並び替え・フィルター)</p> <p>事前学習：エクセルにおけるフィルター機能、ソート機能について調べておく(30分)</p> <p>事後学習：自分に関係のあるデータを使って授業での機能を確認する(60分)</p>
学習内容 13 回	学習のポイント(事前事後の学習を含む) 13 回
インターネット①	<p>情報の検索・公開データの閲覧・活用</p> <p>事前学習：検索エンジンの種類について調べておく(30分)</p> <p>事後学習：検索方法について自分で復習する(60分)</p>
学習内容 14 回	学習のポイント(事前事後の学習を含む) 14 回
インターネット②	ネットワーク活用の基礎と情報モラル

	<p>事前学習：コンピュータネットワークについて概略を理解しておく（30分）</p> <p>事後学習：実際のネットワークを使って授業内容を確認する（60分）</p>
学習内容15回	学習のポイント(事前事後の学習を含む)15回
定期試験（実技試験）	<p>コンピュータ上で出題、コンピュータ上で回答</p> <p>事前学習：これまで授業で経験した事を再度確認しておく（30分）</p> <p>事後学習：試験でできなかった問題は必ずできるようにしておく（60分）</p>
学習内容16回	学習のポイント(事前事後の学習を含む)16回
総括講義	<p>本演習のまとめ 授業評価の実施 試験の答え合わせ・採点チェック</p> <p>事前学習：これまでの授業内容をまとめた資料を自分で作成しておく（30分）</p> <p>事後学習：どの分野が自分にとって苦手だったか振り返って復習する（60分）</p>
成績評価の方法・基準	
定期試験（実技試験）100%	
教科書・参考文献	
講義のはじめに指示する。	
履修条件	
なし	

科 目 名	卒業演習 I		
サブタイトル			
担 当 者 名	演習担当教員		
学 科	食物栄養科栄養士コース		
開 講 期	後期	単 位 数	1 単位
履修系統図番号	12N-1005		
必修、選択の別	必修		
授 業 形 態	演習	科目区分	専門教育科目
到達目標			
1. 基礎演習での学習を基礎として、専門分野に対する学習意欲を高める。 2. 卒業レポート作成に向けての論理的な思考力、文章力、表現力等を養う。 3. 食と健康についての知識・技術を習得する。 4. 栄養士に必要な情報リテラシーを習得する。 5. 数理・データサイエンスの基礎を学ぶ。			
授業概要			
本演習は、基礎演習での学習を発展させ、学生自らがテーマを設定し、主体的な研究を進め、「卒業演習Ⅱ」における卒業レポート・卒業制作へとつなげていくものである。また、情報リテラシーを身に付け、数理・データサイエンスの基礎を学ぶことで種々の情報を分析、評価、整理、活用する方法を学ぶ。 本演習は、本学の特色ある科目として、卒業必修科目の一つとなっており、学生一人一人の個性の伸長と専門分野に関わる学習の深化に力点をおいている。 本授業は、状況によってオンライン教材等を用いた遠隔授業を行う。			
学習内容 1 回		学習のポイント(事前事後の学習を含む) 1 回	
オリエンテーション		データサイエンスの導入 ・ 専門職で働くことに注目したデータサイエンスの役割 ・ データ分析の対象や目的の設定 ・ データサイエンス教育と社会の応用事例 使用テキスト：はじめてのデータサイエンス(学術図書出版)	
学習内容 2 回		学習のポイント(事前事後の学習を含む) 2 回	
数理・データサイエンス・AIの基礎(1)		社会で活用されているデータ ・ 「データ」とは何か、データの種類 ・ 実際のデータの入手方法や解析方法の基本 ・ 復習テスト(10問) 事前学習：資料の熟読(30分) 事後学習：PCを使つての課題(60分)	
学習内容 3 回		学習のポイント(事前事後の学習を含む) 3 回	
数理・データサイエンス・AIの基礎(2)		データの活用領域 ・ 「データサイエンス」とは何か(調べ学習) ・ グループ内発表 ・ ディスカッション：テーマ「データ、AIの活用領域の広がり、どのような分野でデータサイエンスが取り入れられているか、今後データサイエンスを取り入れるとよりよくなる可能性がある分野は何か」 ・ データサイエンスのサイクル ・ 様々な分野におけるデータサイエンスの活用事例 ・ 活用事例の課題説明 ・ 復習テスト(1-5の内容を含めて10問) 事前学習：資料の熟読(30分) 事後学習：PCを使つての課題(60分)	
学習内容 4 回		学習のポイント(事前事後の学習を含む) 4 回	
数理・データサイエンス・AIの基礎(3)		様々なデータの種類とその読み方 ・ データの種類(量的変数、質的変数)	

	<ul style="list-style-type: none"> ・データの分布（ヒストグラム）と代表値（平均値、中央値、最頻値） ・代表値の静謐の違い ・データのばらつき（分散、標準偏差、偏差値） ・打ち切りや脱落を含むデータ、層別の必要なデータ ・相関と因果（相関係数、疑似相関、交絡） ・母集団と標本抽出（国勢調査、アンケート調査、全数調査、単純無作為抽出、層別抽出、多段抽出） ・クロス集計表、分割表、相関係数行列、散布図行列 ・データの比較（条件をそろえた比較、処理の前後での比較、A/Bテスト） ・統計情報の正しい理解（誇張表現に惑わされない） ・復習テスト（10問） <p>事前学習：資料の熟読（30分） 事後学習：PCを使つての課題（60分）</p>
学習内容 5 回	学習のポイント（事前事後の学習を含む） 5 回
研究方法（1）	卒業レポートの書き方（目的、方法、結果、考察）についての学習 事前学習：過去の卒業レポートの熟読（30分） 事後学習：自身の研究についての考察（60分）
学習内容 6 回	学習のポイント（事前事後の学習を含む） 6 回
数理・データサイエンス・AIの基礎（4）	<p>様々なデータの表現・集計方法のエクセルを使つての演習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データ表現（棒グラフ、折れ線グラフ、散布図） ・データの図表表現（チャート化） ・不適切なグラフ表現（チャートジャンク、 unnecessary 視覚的要素） ・優れた可視化事例の紹介 ・基本統計量を求める ・相関係数を求める ・検定の考え方と平均値の差の検定 ・復習テスト（10問） <p>事前学習：資料の熟読（30分） 事後学習：PCを使つての課題（60分）</p>
学習内容 7 回	学習のポイント（事前事後の学習を含む） 7 回
数理・データサイエンス・AIの基礎（5）	<p>様々なデータ活用事例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今のAIでできることとできないこと ・AIとビックデータ ・特殊型AIと汎用AI ・復習テスト（10問） <p>事前学習：資料の熟読（30分） 事後学習：PCを使つての課題（60分）</p>
学習内容 8 回	学習のポイント（事前事後の学習を含む） 8 回
数理・データサイエンス・AIの基礎（6）	<p>プログラミングの基礎についての学習</p> <p>事前学習：資料の熟読（30分） 事後学習：PCを使つての課題（60分）</p>
学習内容 9 回	学習のポイント（事前事後の学習を含む） 9 回
研究方法（2）	<p>研究テーマに関する情報収集・探索法の学習</p> <p>事前学習：研究関連書籍の熟読（60分） 事後学習：自身の研究についての考察（30分）</p>
学習内容 10 回	学習のポイント（事前事後の学習を含む） 10 回
数理・データサイエンス・AIの基礎（7）	<p>情報セキュリティについての学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報セキュリティ（気密性、安全性、可用性） ・匿名加工情報と暗号化、パスワード、悪意のある情報搾取 ・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介とグループディスカッション ・個人情報の保護、EU、一般データ保護規則、忘れら

	<p>れる権利、オプトアウト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データ倫理（データの捏造、改ざん、盗用、プライバシーの保護） ・AI社会原則（公平性、説明責任、透明性、人間中心の判断） ・復習テスト（10問） <p>事前学習：資料の熟読（30分） 事後学習：PCを使つての課題（60分）</p>
学習内容 1 1 回	学習のポイント（事前事後の学習を含む） 1 1 回
予備的研究（1）	<p>研究テーマの検討・決定</p> <p>事前学習：研究関連書籍の熟読（60分） 事後学習：自身の研究についての検討（30分）</p>
学習内容 1 2 回	学習のポイント（事前事後の学習を含む） 1 2 回
予備的研究（2）	<p>調査方法（実験・実習法、製作法）の検討、調査表の作成</p> <p>事前学習：調査法の検索（60分） 事後学習：具体的な研究方法の検討（30分）</p>
学習内容 1 3 回	学習のポイント（事前事後の学習を含む） 1 3 回
予備的研究（3）	<p>調査の実施、実験・実習、製作法の決定 結果の処理方法の学習</p> <p>事前学習：調査のための準備（60分） 事後学習：調査結果についての検討（60分）</p>
学習内容 1 4 回	学習のポイント（事前事後の学習を含む） 1 4 回
研究方法（4）	<p>発表の方法（プレゼンテーション技法等）についての学習</p> <p>事前学習：先行研究者のレポートの熟読（60分） 事後学習：プレゼン関係などの書籍を活用しまとめる（60分）</p>
学習内容 1 5 回	学習のポイント（事前事後の学習を含む） 1 5 回
総括講義 卒業レポートゼミ内発表会	<p>課題、発表等に対するフィードバックを行う 1,2年生合同ゼミ内発表 発表内容に対するディスカッションを行い技法などを学習する</p> <p>事前学習：発表者作成資料の熟読（60分） 事後学習：発表から学習した事項をまとめる（60分）</p>
学習内容 1 6 回	学習のポイント（事前事後の学習を含む） 1 6 回
卒業レポート発表会	<p>卒業レポート発表会の参加</p> <p>事前学習：要旨集の熟読（60分） 事後学習：発表内容から自身のレポートに活用させる（60分以上）</p> <p>授業評価</p>
成績評価の方法・基準	
授業態度50%、資料作成25%、提出物25%	
教科書・参考文献	
滋賀大学データサイエンス学部・山梨学院大学ICTリテラシー教育チーム共編「はじめてのデータサイエンス」学術図書出版	
履修条件	
なし	

科 目 名	卒業演習 I		
サブタイトル			
担 当 者 名	演習担当教員		
学 科	食物栄養科パティシエコース		
開 講 期	後期	単 位 数	1 単位
履修系統図番号	12P-1005		
必修、選択の別	必修		
授 業 形 態	演習	科目区分	専門教育科目
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎演習での学習を基礎として、専門分野に対する学習意欲を高める。 2. 卒業レポート作成に向けての論理的な思考力、文章力、表現力等を養う。 3. 食と健康についての知識・技術を習得する。 4. 製菓衛生師に必要な情報リテラシーを習得する。 5. 数理・データサイエンスの基礎を学ぶ。 			
授業概要			
<p>本演習は、基礎演習での学習を発展させ、学生自らがテーマを設定し、主体的な研究を進め、「卒業演習Ⅱ」における卒業レポート・卒業制作へとつなげていくものである。また、情報リテラシーを身に付け、数理・データサイエンスの基礎を学ぶことで種々の情報を分析、評価、整理、活用する方法を学ぶ。</p> <p>本演習は、本学の特色ある科目として、卒業必修科目の一つとなっており、学生一人一人の個性の伸長と専門分野に関わる学習の深化に力点を置いている。</p> <p>本授業は、状況によってオンライン教材等を用いた遠隔授業を行う。</p>			
学習内容 1 回		学習のポイント(事前事後の学習を含む) 1 回	
オリエンテーション		データサイエンスの導入 <ul style="list-style-type: none"> ・ 専門職で働くことに注目したデータサイエンスの役割 ・ データ分析の対象や目的の設定 ・ データサイエンス教育と社会の応用事例 使用テキスト：はじめてのデータサイエンス(学術図書出版)	
学習内容 2 回		学習のポイント(事前事後の学習を含む) 2 回	
数理・データサイエンス・AIの基礎(1)		社会で活用されているデータ <ul style="list-style-type: none"> ・ 「データ」とはなにか、データの種類 ・ 実際のデータの入手方法や解析方法の基本 ・ 復習テスト(10問) 事前学習：資料の熟読(30分) 事後学習：PCを使つての課題(60分)	
学習内容 3 回		学習のポイント(事前事後の学習を含む) 3 回	
数理・データサイエンス・AIの基礎(2)		データの活用領域 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「データサイエンス」とは何か ・ グループ内発表 ・ ディスカッション：テーマ「データ、AIの活用領域の広がり、どのような分野でデータサイエンスが取り入れられているか、今後データサイエンスを取り入れるとよりよくなる可能性がある分野は何か」 ・ データサイエンスのサイクル ・ 様々な分野におけるデータサイエンスの活用事例 ・ 活用事例の課題説明 ・ 復習テスト(1-5の内容を含めて10問) 事前学習：資料の熟読(30分) 事後学習：PCを使つての課題(60分)	
学習内容 4 回		学習のポイント(事前事後の学習を含む) 4 回	
数理・データサイエンス・AIの基礎(3)		様々なデータの種類とその読み方 <ul style="list-style-type: none"> ・ データの種類(量的変数、質的変数) 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・データの分布（ヒストグラム）と代表値（平均値、中央値、最頻値） ・代表値の静謐の違い ・データのばらつき（分散、標準偏差、偏差値） ・打ち切りや脱落を含むデータ、層別の必要なデータ ・相関と因果（相関係数、疑似相関、交絡） ・母集団と標本抽出（国勢調査、アンケート調査、全数調査、単純無作為抽出、層別抽出、多段抽出） ・クロス集計表、分割表、相関係数行列、散布図行列 ・データの比較（条件をそろえた比較、処理の前後での比較、A/Bテスト） ・統計情報の正しい理解（誇張表現に惑わされない） ・復習テスト（10問） <p>事前学習：資料の熟読（30分） 事後学習：PCを使つての課題（60分）</p>
学習内容 5 回	学習のポイント（事前事後の学習を含む）5 回
研究方法（1）	卒業レポートの書き方（目的、方法、結果、考察）についての学習 事前学習：過去の卒業レポートの熟読（30分） 事後学習：自身の研究についての考察（60分）
学習内容 6 回	学習のポイント（事前事後の学習を含む）6 回
数理・データサイエンス・AIの基礎（4）	<p>様々なデータの表現・集計方法のエクセルを使つての演習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データ表現（棒グラフ、折れ線グラフ、散布図） ・データの図表表現（チャート化） ・不適切なグラフ表現（チャートジャンク、 unnecessary 視覚的要素） ・優れた可視化事例の紹介 ・基本統計量を求める ・相関係数を求める ・検定の考え方と平均値の差の検定 ・復習テスト（10問） <p>事前学習：資料の熟読（30分） 事後学習：PCを使つての課題（60分）</p>
学習内容 7 回	学習のポイント（事前事後の学習を含む）7 回
数理・データサイエンス・AIの基礎（5）	<p>様々なデータ活用事例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今のAIのできることでできないこと ・AIとビックデータ ・特殊型AIと汎用AI ・復習テスト（10問） <p>事前学習：資料の熟読（30分） 事後学習：PCを使つての課題（60分）</p>
学習内容 8 回	学習のポイント（事前事後の学習を含む）8 回
数理・データサイエンス・AIの基礎（6）	<p>プログラミングの基礎についての学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復習テスト（10問） <p>事前学習：資料の熟読（30分） 事後学習：PCを使つての課題（60分）</p>
学習内容 9 回	学習のポイント（事前事後の学習を含む）9 回
研究方法（2）	<p>研究テーマに関する情報収集・探索法の学習</p> <p>事前学習：研究関連書籍の熟読（60分） 事後学習：自身の研究についての考察（30分）</p>
学習内容 10 回	学習のポイント（事前事後の学習を含む）10 回
数理・データサイエンス・AIの基礎（7）	<p>情報セキュリティについての学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報セキュリティ（気密性、安全性、可用性） ・匿名加工情報と暗号化、パスワード、悪意のある情報搾取 ・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介とグループディスカッション

	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の保護、EU、一般データ保護規則、忘れられる権利、オプトアウト ・データ倫理（データの捏造、改ざん、盗用、プライバシーの保護） ・AI社会原則（公平性、説明責任、透明性、人間中心の判断） ・復習テスト（10問） <p>事前学習：資料の熟読（30分） 事後学習：PCを使つての課題（60分）</p>
学習内容 1 1回	学習のポイント（事前事後の学習を含む） 1 1回
予備的研究（1）	<p>研究テーマの検討・決定</p> <p>事前学習：研究関連書籍の熟読（60分） 事後学習：自身の研究についての検討（30分）</p>
学習内容 1 2回	学習のポイント（事前事後の学習を含む） 1 2回
予備的研究（2）	<p>調査方法（実験・実習法、製作法）の検討、調査表の作成</p> <p>事前学習：調査法の検索（60分） 事後学習：具体的な研究方法の検討（30分）</p>
学習内容 1 3回	学習のポイント（事前事後の学習を含む） 1 3回
予備的研究（3）	<p>調査の実施、実験・実習、製作法の決定 結果の処理方法の学習</p> <p>事前学習：調査のための準備（60分） 事後学習：調査結果についての検討（60分）</p>
学習内容 1 4回	学習のポイント（事前事後の学習を含む） 1 4回
研究方法（4）	<p>発表の方法（プレゼンテーション技法等）についての学習</p> <p>事前学習：先行研究者のレポートの熟読（60分） 事後学習：プレゼン関係などの書籍を活用しまとめる（60分）</p>
学習内容 1 5回	学習のポイント（事前事後の学習を含む） 1 5回
総括講義 卒業レポートゼミ内発表会	<p>課題、発表等に対するフィードバックを行う 1,2年生合同ゼミ内発表 発表内容に対するディスカッションを行い技法などを学習する</p> <p>事前学習：発表者作成資料の熟読（60分） 事後学習：発表から学習した事項をまとめる（60分）</p>
学習内容 1 6回	学習のポイント（事前事後の学習を含む） 1 6回
卒業レポート発表会	<p>卒業レポート発表会の参加</p> <p>事前学習：要旨集の熟読（60分） 事後学習：発表内容から自身のレポートに活用させる（60分以上）</p> <p>授業評価</p>
成績評価の方法・基準	
授業態度50%、資料作成25%、提出物25%	
教科書・参考文献	
滋賀大学データサイエンス学部・山梨学院大学ICTリテラシー教育チーム共編「はじめてのデータサイエンス」学術図書出版	
履修条件	
なし	

科目名	卒業演習 I		
サブタイトル			
担当者名	演習担当教員		
学科	保育科		
開講期	後期	単位数	1単位
履修系統図番号	12C-1005		
必修、選択の別	必修		
授業形態	演習	科目区分	専門教育科目
到達目標			
1. 基礎演習での学習を基礎として、専門分野に対する学習意欲を高める。 2. 卒業レポート作成に向けての論理的な思考力、文章力、表現力等を養う。 3. 教育や福祉についての知識・技術を習得する。 4. 保育者に必要な情報リテラシーを習得する。 5. 数理・データサイエンスの基礎を学ぶ。			
授業概要			
本演習は、基礎演習での学習を発展させ、学生自らがテーマを設定し、主体的な研究を進め、「卒業演習Ⅱ」における卒業レポート・卒業制作へとつなげていくものである。また、情報リテラシーを身に付け、数理・データサイエンスの基礎を学ぶことで種々の情報を分析、評価、整理、活用する方法を学ぶ。 本演習は、本学の特色ある科目として、卒業必修科目の一つとなっており、学生一人一人の個性の伸長と専門分野に関わる学習の深化に力点を置いている。 本授業は、状況によってオンライン教材等を用いた遠隔授業を行う。			
学習内容 1回		学習のポイント(事前事後の学習を含む) 1回	
オリエンテーション		データサイエンスの導入 ・専門職で働くことに注目したデータサイエンスの役割 ・データ分析の対象や目的の設定 ・データサイエンス教育と社会の応用事例 使用テキスト：はじめてのデータサイエンス(学術図書出版)	
学習内容 2回		学習のポイント(事前事後の学習を含む) 2回	
数理・データサイエンス・AIの基礎(1)		社会で活用されているデータ ・「データ」とはなにか、データの種類 ・実際のデータの入手方法や解析方法の基本 ・復習テスト(10問) 事前学習：資料の熟読(30分) 事後学習：PCを使っての課題(60分)	
学習内容 3回		学習のポイント(事前事後の学習を含む) 3回	
数理・データサイエンス・AIの基礎(2)		データの活用領域 ・「データサイエンス」とは何か ・グループ内発表 ・ディスカッション：テーマ「データ、AIの活用領域の広がり、どのような分野でデータサイエンスが取り入れられているか、今後データサイエンスを取り入れるとよりよくなる可能性がある分野は何か」 ・データサイエンスのサイクル ・様々な分野におけるデータサイエンスの活用事例 ・活用事例の課題説明 ・復習テスト(1-5の内容を含めて10問) 事前学習：資料の熟読(30分) 事後学習：PCを使っての課題(60分)	
学習内容 4回		学習のポイント(事前事後の学習を含む) 4回	
数理・データサイエンス・AIの基礎(3)		様々なデータの種類とその読み方 ・データの種類(量的変数、質的変数)	

	<ul style="list-style-type: none"> ・データの分布（ヒストグラム）と代表値（平均値、中央値、最頻値） ・代表値の静謐の違い ・データのばらつき（分散、標準偏差、偏差値） ・打ち切りや脱落を含むデータ、層別の必要なデータ ・相関と因果（相関係数、疑似相関、交絡） ・母集団と標本抽出（国勢調査、アンケート調査、全数調査、単純無作為抽出、層別抽出、多段抽出） ・クロス集計表、分割表、相関係数行列、散布図行列 ・データの比較（条件をそろえた比較、処理の前後での比較、A/Bテスト） ・統計情報の正しい理解（誇張表現に惑わされない） ・復習テスト（10問） <p>事前学習：資料の熟読（30分） 事後学習：PCを使つての課題（60分）</p>
学習内容 5 回	学習のポイント（事前事後の学習を含む） 5 回
研究方法（1）	卒業レポートの書き方（目的、方法、結果、考察）についての学習 事前学習：過去の卒業レポートの熟読（30分） 事後学習：自身の研究についての考察（60分）
学習内容 6 回	学習のポイント（事前事後の学習を含む） 6 回
数理・データサイエンス・AIの基礎（4）	<p>様々なデータの表現・集計方法のエクセルを使つての演習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データ表現（棒グラフ、折れ線グラフ、散布図） ・データの図表表現（チャート化） ・不適切なグラフ表現（チャートジャンク、 unnecessary 視覚的要素） ・優れた可視化事例の紹介 ・基本統計量を求める ・相関係数を求める ・検定の考え方と平均値の差の検定 ・復習テスト（10問） <p>事前学習：資料の熟読（30分） 事後学習：PCを使つての課題（60分）</p>
学習内容 7 回	学習のポイント（事前事後の学習を含む） 7 回
数理・データサイエンス・AIの基礎（5）	<p>様々なデータ活用事例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今のAIのできることでできないこと ・AIとビックデータ ・特殊型AIと汎用AI ・復習テスト（10問） <p>事前学習：資料の熟読（30分） 事後学習：PCを使つての課題（60分）</p>
学習内容 8 回	学習のポイント（事前事後の学習を含む） 8 回
数理・データサイエンス・AIの基礎（6）	<p>プログラミングの基礎についての学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復習テスト（10問） <p>事前学習：資料の熟読（30分） 事後学習：PCを使つての課題（60分）</p>
学習内容 9 回	学習のポイント（事前事後の学習を含む） 9 回
研究方法（2）	<p>研究テーマに関する情報収集・探索法の学習</p> <p>事前学習：研究関連書籍の熟読（60分） 事後学習：自身の研究についての考察（30分）</p>
学習内容 10 回	学習のポイント（事前事後の学習を含む） 10 回
数理・データサイエンス・AIの基礎（7）	<p>情報セキュリティについての学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報セキュリティ（気密性、安全性、可用性） ・匿名加工情報と暗号化、パスワード、悪意のある情報搾取 ・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介とグループディスカッション

	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の保護、EU、一般データ保護規則、忘れられる権利、オプトアウト ・データ倫理（データの捏造、改ざん、盗用、プライバシーの保護） ・AI社会原則（公平性、説明責任、透明性、人間中心の判断） ・復習テスト（10問） <p>事前学習：資料の熟読（30分） 事後学習：PCを使っの課題（60分）</p>
学習内容 1 1 回	学習のポイント（事前事後の学習を含む） 1 1 回
予備的研究（1）	<p>研究テーマの検討・決定</p> <p>事前学習：研究関連書籍の熟読（60分） 事後学習：自身の研究についての検討（30分）</p>
学習内容 1 2 回	学習のポイント（事前事後の学習を含む） 1 2 回
予備的研究（2）	<p>調査方法（実験・実習法、製作法）の検討、調査表の作成</p> <p>事前学習：調査法の検索（60分） 事後学習：具体的な研究方法の検討（30分）</p>
学習内容 1 3 回	学習のポイント（事前事後の学習を含む） 1 3 回
予備的研究（3）	<p>調査の実施、実験・実習、製作法の決定 結果の処理方法の学習</p> <p>事前学習：調査のための準備（60分） 事後学習：調査結果についての検討（60分）</p>
学習内容 1 4 回	学習のポイント（事前事後の学習を含む） 1 4 回
研究方法（4）	<p>発表の方法（プレゼンテーション技法等）についての学習</p> <p>事前学習：先行研究者のレポートの熟読（60分） 事後学習：プレゼン関係などの書籍を活用しまとめる（60分）</p>
学習内容 1 5 回	学習のポイント（事前事後の学習を含む） 1 5 回
総括講義 卒業レポートゼミ内発表会	<p>課題、発表等に対するフィードバックを行う 1,2年生合同ゼミ内発表 発表内容に対するディスカッションを行い技法などを学習する</p> <p>事前学習：発表者作成資料の熟読（60分） 事後学習：発表から学習した事項をまとめる（60分）</p>
学習内容 1 6 回	学習のポイント（事前事後の学習を含む） 1 6 回
卒業レポート発表会	<p>卒業レポート発表会の参加</p> <p>事前学習：要旨集の熟読（60分） 事後学習：発表内容から自身のレポートに活用させる（60分以上）</p> <p>授業評価</p>
成績評価の方法・基準	
授業態度50%、資料作成25%、提出物25%	
教科書・参考文献	
滋賀大学データサイエンス学部・山梨学院大学ICTリテラシー教育チーム共編「はじめてのデータサイエンス」学術図書出版	
履修条件	
なし	

科 目 名	社会人基礎力育成講座 I		
サブタイトル			
担 当 者 名	演習担当教員		
学 科	食物栄養科栄養士コース		
開 講 期	通年	単 位 数	1 単位
履修系統図番号	1NPC-1001		
必修、選択の別	必修		
授 業 形 態	演習	科目区分	専門教育科目
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 生活拠点の”山梨”を知る。 2. 知的好奇心や探求心をもって、学ぶ姿勢を形成する。 3. 現代社会を生きる上での見識や幅広い視野を獲得する。 4. 人や社会に対する奉仕的精神や倫理観を養う。 5. 地域社会の課題をとらえ、その解決に創造的に取り組む力を形成する。 			
授業概要			
<p>この科目は、人間力の向上を主たる目的とした卒業要件科目であり、深い知性、豊かな感性、高い品性を備え、時代の変化に対応して創造性豊かに生きる人間の育成を目指している。体系的に社会で生きるために必要な基礎力を育成するため、4つの領域による授業構成から専門職養成教育につなげる。</p> <p>【知的好奇心・探求心】知的好奇心や探求心をもって、学ぶ姿勢を形成する 【見識や幅広い視野】現代社会を生きる上での見識や幅広い視野を獲得する 【奉仕的精神や倫理観】人と社会に対する奉仕的精神や倫理観を醸成する 【地域社会の課題】地域社会の課題をとらえ、その解決に創造的に取り組む力を形成する</p> <p>外部講師を招き、社会の規律や今日的な課題について学ぶ。また、データサイエンスやパワーポイントを用いたプレゼンテーション能力の向上、自学自習システムを活用した学習を通して、主体的な学習姿勢を養う。山梨県社会福祉協議会との連携に基づく地域貢献活動に取り組み、地域社会の課題や社会の要求を知り、社会の一員としての自覚や社会貢献力を育成する。</p> <p>本学では、とくに「真に社会に貢献しうる力」の育成をめざし、地域貢献活動を推奨している。自ら進んで社会活動に無償で参加することで、社会貢献を果たすとともにマナーやコミュニケーション等の社会人として必要な力を身につけ、豊かな人間性を培うことを目的としている。</p> <p>この科目は学生の主体的な活動を取り入れたアクティブ・ラーニングの授業となっている。また、状況によって、オンライン教材等を用いた遠隔授業を行う。</p>			
学習内容 1 回		学習のポイント(事前事後の学習を含む) 1 回	
【知的好奇心・探求心】 オリエンテーション		本教科ガイダンス オリエンテーションセミナーの概要説明 地域貢献活動の概要説明 事前学習：学生便覧を読む(30分) 事後学習：学習内容についてレポートにまとめる(60分)	
学習内容 2 回		学習のポイント(事前事後の学習を含む) 2 回	
【知的好奇心・探求心】 オリエンテーションセミナー I		学生生活ガイダンス 学長講演「短期大学で学ぶ意義」 事前学習：学生便覧を読む(30分) 事後学習：本学に入学した目的をふりかえり、自分の将来像を描き、レポートにまとめる(60分)	
学習内容 3 回		学習のポイント(事前事後の学習を含む) 3 回	
【知的好奇心・探求心】 オリエンテーションセミナー II		グループワーク「自己紹介」「充実した2年間にするには？」 事前学習：学生便覧を読む(30分) 事後学習：本学に入学した目的をふりかえり、自分の将来像を描き、レポートにまとめる(60分)	
学習内容 4 回		学習のポイント(事前事後の学習を含む) 4 回	
【見識や幅広い視野】 フレッシュマンセミナー I		講演「ネットリテラシー」	

	事前学習：リテラシーの意味を調べる（30分） 事後学習：学習内容について、レポートにまとめる（60分）
学習内容 5 回	学習のポイント(事前事後の学習を含む) 5 回
【奉仕的精神や倫理観】 フレッシュマンセミナーⅡ	講演「地域貢献活動の意義」 事前学習：地域貢献活動とは何か調べる（30分） 事後学習：地域貢献活動の目的、意義、約束事等について学習内容をレポートにまとめる（60分）
学習内容 6 回	学習のポイント(事前事後の学習を含む) 6 回
【地域社会の課題】 社会人としての基礎を学ぶⅠ	講演「山梨の防災」 事前学習：山梨県の過去の災害について調べる（30分） 事後学習：学内の避難ルートを確認する。防災対策についてのレポートを作成する（60分）
学習内容 7 回	学習のポイント(事前事後の学習を含む) 7 回
【地域社会の課題】 社会人としての基礎を学ぶⅡ	講演「支えあるための食育－フードバンク山梨プロジェクト」 事前学習：フードバンクについて調べる（60分） 事後学習：貧困についてのレポートを作成する（60分）
学習内容 8 回	学習のポイント(事前事後の学習を含む) 8 回
【見識や幅広い視野】 キャリアを考える	講演「卒業生からのメッセージ」（職業理解と職業選択） 事前学習：興味のある仕事に関するHPを、3件以上閲覧する（60分） 事後学習：学習内容についてレポートにまとめ、自分の職業像を考える（60分）
学習内容 9 回	学習のポイント(事前事後の学習を含む) 9 回
【知的好奇心・探求心】 課題研究Ⅰ	教員が推奨する書籍や映像などを視聴、プレゼンテーションの作成・口頭発表 事前学習：書籍・ビデオ等の選択・調べ学習（30分） 事後学習：グループディスカッション後のレポートを作成する（120分）
学習内容 10 回	学習のポイント(事前事後の学習を含む) 10 回
【見識や幅広い視野】 データサイエンスと社会の繋がり	講演「データを起点としたものの見方、人間の知的活動を拠点としたものの見方」 ビックデータ、IoT、AI、ロボット 第4次産業革命、Society5.0、データ駆動型社会 事前学習：データサイエンスの意味を調べる（30分） 事後学習：学習内容について、レポートにまとめる（60分）
学習内容 11 回	学習のポイント(事前事後の学習を含む) 11 回
【見識や幅広い視野】 プレゼンテーションの発表	AI等最新技術の活用例調べ学習の成果発表、ディスカッション 事前学習：プレゼンテーションの準備（60分） 事後学習：グループディスカッション後のレポートを作成する（60分）
学習内容 12 回	学習のポイント(事前事後の学習を含む) 12 回
【見識や幅広い視野】 日常作法(マナー学習)	作法講座：基本所作を学ぶ

	事前学習：日本の伝統的な作法について調べる（30分） 事後学習：学習内容についてレポートにまとめる（60分）
学習内容 1 3回	学習のポイント(事前事後の学習を含む) 1 3回
【知的好奇心・探求心】 【地域社会の課題】 自学自習 I (01~10) (自主学習支援)	自学自習システムの活用による基礎的な一般教養（自然科学、人文・社会科学）の知識や山梨の歴史・地理・産業・人物等に関する理解を深める。 自発的学習態度を育成する。
学習内容 1 4回	学習のポイント(事前事後の学習を含む) 1 4回
【知的好奇心・探求心】 【地域社会の課題】 自学自習 II (11~20) (自主学習支援)	自学自習システムの活用による基礎的な一般教養（自然科学、人文・社会科学）の知識や山梨の歴史・地理・産業・人物等に関する理解を深める。 自発的学習態度を育成する。
学習内容 1 5回	学習のポイント(事前事後の学習を含む) 1 5回
【奉仕的精神や倫理観】 【地域社会の課題】 地域貢献活動	地域貢献活動（実践活動） 事前学習：地域貢献活動先・内容を確認する 事後学習：実践報告のレポートを作成する
学習内容 1 6回	学習のポイント(事前事後の学習を含む) 1 6回
【奉仕的精神や倫理観】 【地域社会の課題】 地域貢献活動	地域貢献活動（実践活動） 事前学習：地域貢献活動先・内容を確認する 事後学習：実践報告のレポートを作成する
学習内容 1 7回	学習のポイント(事前事後の学習を含む) 1 7回
総括講義	各授業内容の振り返り
成績評価の方法・基準	
受講レポート35% ボランティア・パスポートの作成35%、 自学自習システムの到達度30% ※地域貢献活動は2ヶ所以上8時間以上行うこと	
教科書・参考文献	
関連資料配布 ボランティア・パスポート	
履修条件	
卒業必修	

科 目 名	社会人基礎力育成講座 I		
サブタイトル			
担 当 者 名	演習担当教員		
学 科	食物栄養科パティシエコース		
開 講 期	通年	単 位 数	1 単位
履修系統図番号	1NPC-1001		
必修、選択の別	必修		
授 業 形 態	演習	科目区分	専門教育科目
到達目標			
1. 生活拠点の”山梨”を知る。 2. 知的好奇心や探求心をもって、学ぶ姿勢を形成する。 3. 現代社会を生きる上での見識や幅広い視野を獲得する。 4. 人や社会に対する奉仕的精神や倫理観を養う。 5. 地域社会の課題をとらえ、その解決に創造的に取り組む力を形成する。			
授業概要			
この科目は、人間力の向上を主たる目的とした卒業要件科目であり、深い知性、豊かな感性、高い品性を備え、時代の変化に対応して創造性豊かに生きる人間の育成を目指している。体系的に社会で生きるために必要な基礎力を育成するため、4つの領域による授業構成から専門職養成教育につなげる。 【知的好奇心・探求心】知的好奇心や探求心をもって、学ぶ姿勢を形成する 【見識や幅広い視野】現代社会を生きる上での見識や幅広い視野を獲得する 【奉仕的精神や倫理観】人と社会に対する奉仕的精神や倫理観を醸成する 【地域社会の課題】地域社会の課題をとらえ、その解決に創造的に取り組む力を形成する 外部講師を招き、社会の規律や今日的な課題について学ぶ。また、データサイエンスやパワーポイントを用いたプレゼンテーション能力の向上、自学自習システムを活用した学習を通して、主体的な学習姿勢を養う。山梨県社会福祉協議会との連携に基づく地域貢献活動に取り組み、地域社会の課題や社会の要求を知り、社会の一員としての自覚や社会貢献力を育成する。 本学では、とくに「真に社会に貢献しうる力」の育成をめざし、地域貢献活動を推奨している。自ら進んで社会活動に無償で参加することで、社会貢献を果たすとともにマナーやコミュニケーション等の社会人として必要な力を身につけ、豊かな人間性を培うことを目的としている。 この科目は学生の主体的な活動を取り入れたアクティブ・ラーニングの授業となっている。また、状況によって、オンライン教材等を用いた遠隔授業を行う。			
学習内容 1 回		学習のポイント(事前事後の学習を含む) 1 回	
【知的好奇心・探求心】 オリエンテーション		本教科ガイダンス オリエンテーションセミナーの概要説明 地域貢献活動の概要説明 事前学習：学生便覧を読む(30分) 事後学習：学習内容についてレポートにまとめる(60分)	
学習内容 2 回		学習のポイント(事前事後の学習を含む) 2 回	
【知的好奇心・探求心】 オリエンテーションセミナー I		学生生活ガイダンス 学長講演「短期大学で学ぶ意義」 事前学習：学生便覧を読む(30分) 事後学習：本学に入学した目的をふりかえり、自分の将来像を描き、レポートにまとめる(60分)	
学習内容 3 回		学習のポイント(事前事後の学習を含む) 3 回	
【知的好奇心・探求心】 オリエンテーションセミナー II		グループワーク「自己紹介」「充実した2年間にするには？」 事前学習：学生便覧を読む(30分) 事後学習：本学に入学した目的をふりかえり、自分の将来像を描き、レポートにまとめる(60分)	
学習内容 4 回		学習のポイント(事前事後の学習を含む) 4 回	
【見識や幅広い視野】 フレッシュマンセミナー I		講演「ネットリテラシー」	

	事前学習：リテラシーの意味を調べる（30分） 事後学習：学習内容について、レポートにまとめる（60分）
学習内容 5 回	学習のポイント(事前事後の学習を含む) 5 回
【奉仕的精神や倫理観】 フレッシュマンセミナーⅡ	講演「地域貢献活動の意義」 事前学習：地域貢献活動とは何か調べる（30分） 事後学習：地域貢献活動の目的、意義、約束事等について学習内容をレポートにまとめる（60分）
学習内容 6 回	学習のポイント(事前事後の学習を含む) 6 回
【地域社会の課題】 社会人としての基礎を学ぶⅠ	講演「山梨の防災」 事前学習：山梨県の過去の災害について調べる（30分） 事後学習：学内の避難ルートを確認する。防災対策についてのレポートを作成する（60分）
学習内容 7 回	学習のポイント(事前事後の学習を含む) 7 回
【地域社会の課題】 社会人としての基礎を学ぶⅡ	講演「支えあるための食育—フードバンク山梨プロジェクト」 事前学習：フードバンクについて調べる（60分） 事後学習：貧困についてのレポートを作成する（60分）
学習内容 8 回	学習のポイント(事前事後の学習を含む) 8 回
【見識や幅広い視野】 キャリアを考える	講演「卒業生からのメッセージ」（職業理解と職業選択） 事前学習：興味のある仕事に関するHPを、3件以上閲覧する（60分） 事後学習：学習内容についてレポートにまとめ、自分の職業像を考える（60分）
学習内容 9 回	学習のポイント(事前事後の学習を含む) 9 回
【知的好奇心・探求心】 課題研究Ⅰ	教員が推奨する書籍や映像などを視聴、プレゼンテーションの作成・口頭発表 事前学習：書籍・ビデオ等の選択・調べ学習（30分） 事後学習：グループディスカッション後のレポートを作成する（120分）
学習内容 10 回	学習のポイント(事前事後の学習を含む) 10 回
【見識や幅広い視野】 データサイエンスと社会の繋がり	講演「データを起点としたものの見方、人間の知的活動を拠点としたものの見方」 ビックデータ、IoT、AI、ロボット 第4次産業革命、Society5.0、データ駆動型社会 事前学習：データサイエンスの意味を調べる（30分） 事後学習：学習内容について、レポートにまとめる（60分）
学習内容 11 回	学習のポイント(事前事後の学習を含む) 11 回
【見識や幅広い視野】 プレゼンテーションの発表	AI等最新技術の活用例調べ学習の成果発表、ディスカッション 事前学習：プレゼンテーションの準備（60分） 事後学習：グループディスカッション後のレポートを作成する（60分）
学習内容 12 回	学習のポイント(事前事後の学習を含む) 12 回
【見識や幅広い視野】 日常作法(マナー学習)	作法講座：基本所作を学ぶ

	事前学習：日本の伝統的な作法について調べる（30分） 事後学習：学習内容についてレポートにまとめる（60分）
学習内容 1 3 回	学習のポイント（事前事後の学習を含む）1 3 回
【知的好奇心・探求心】 【地域社会の課題】 自学自習 I (01~10) (自主学習支援)	自学自習システムの活用による基礎的な一般教養（自然科学、人文・社会科学）の知識や山梨の歴史・地理・産業・人物等に関する理解を深める。 自発的学習態度を育成する。
学習内容 1 4 回	学習のポイント（事前事後の学習を含む）1 4 回
【知的好奇心・探求心】 【地域社会の課題】 自学自習 II (11~20) (自主学習支援)	自学自習システムの活用による基礎的な一般教養（自然科学、人文・社会科学）の知識や山梨の歴史・地理・産業・人物等に関する理解を深める。 自発的学習態度を育成する。
学習内容 1 5 回	学習のポイント（事前事後の学習を含む）1 5 回
【奉仕的精神や倫理観】 【地域社会の課題】 地域貢献活動	地域貢献活動（実践活動） 事前学習：地域貢献活動先・内容を確認する 事後学習：実践報告のレポートを作成する
学習内容 1 6 回	学習のポイント（事前事後の学習を含む）1 6 回
【奉仕的精神や倫理観】 【地域社会の課題】 地域貢献活動	地域貢献活動（実践活動） 事前学習：地域貢献活動先・内容を確認する 事後学習：実践報告のレポートを作成する
学習内容 1 7 回	学習のポイント（事前事後の学習を含む）1 7 回
総括講義	各授業内容の振り返り
成績評価の方法・基準	
受講レポート 35% ボランティア・パスポートの作成 35%、 自学自習システムの到達度 30% ※地域貢献活動は2ヶ所以上8時間以上行うこと	
教科書・参考文献	
関連資料配布 ボランティア・パスポート	
履修条件	
卒業必修	

科目名	社会人基礎力育成講座 I		
サブタイトル			
担当者名	演習担当教員		
学科	保育科		
開講期	通年	単位数	1単位
履修系統図番号	1NPC-1001		
必修、選択の別	必修		
授業形態	演習	科目区分	専門教育科目
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 生活拠点の”山梨”を知る。 2. 知的好奇心や探求心をもって、学ぶ姿勢を形成する。 3. 現代社会を生きる上での見識や幅広い視野を獲得する。 4. 人や社会に対する奉仕的精神や倫理観を養う。 5. 地域社会の課題をとらえ、その解決に創造的に取り組む力を形成する。 			
授業概要			
<p>この科目は、人間力の向上を主たる目的とした卒業要件科目であり、深い知性、豊かな感性、高い品性を備え、時代の変化に対応して創造性豊かに生きる人間の育成を目指している。体系的に社会で生きるために必要な基礎力を育成するため、4つの領域による授業構成から専門職養成教育につなげる。</p> <p>【知的好奇心・探求心】知的好奇心や探求心をもって、学ぶ姿勢を形成する 【見識や幅広い視野】現代社会を生きる上での見識や幅広い視野を獲得する 【奉仕的精神や倫理観】人と社会に対する奉仕的精神や倫理観を醸成する 【地域社会の課題】地域社会の課題をとらえ、その解決に創造的に取り組む力を形成する</p> <p>外部講師を招き、社会の規律や今日的な課題について学ぶ。また、データサイエンスやパワーポイントを用いたプレゼンテーション能力の向上、自学自習システムを活用した学習を通して、主体的な学習姿勢を養う。山梨県社会福祉協議会との連携に基づく地域貢献活動に取り組み、地域社会の課題や社会の要求を知り、社会の一員としての自覚や社会貢献力を育成する。</p> <p>本学では、とくに「真に社会に貢献しうる力」の育成をめざし、地域貢献活動を推奨している。自ら進んで社会活動に無償で参加することで、社会貢献を果たすとともにマナーやコミュニケーション等の社会人として必要な力を身につけ、豊かな人間性を培うことを目的としている。</p> <p>この科目は学生の主体的な活動を取り入れたアクティブ・ラーニングの授業となっている。また、状況によって、オンライン教材等を用いた遠隔授業を行う。</p>			
学習内容 1回		学習のポイント(事前事後の学習を含む) 1回	
【知的好奇心・探求心】 オリエンテーション		本教科ガイダンス オリエンテーションセミナーの概要説明 地域貢献活動の概要説明	
		事前学習：学生便覧を読む(30分) 事後学習：学習内容についてレポートにまとめる(60分)	
学習内容 2回		学習のポイント(事前事後の学習を含む) 2回	
【知的好奇心・探求心】 オリエンテーションセミナー I		学生生活ガイダンス 学長講演「短期大学で学ぶ意義」	
		事前学習：学生便覧を読む(30分) 事後学習：本学に入学した目的をふりかえり、自分の将来像を描き、レポートにまとめる(60分)	
学習内容 3回		学習のポイント(事前事後の学習を含む) 3回	
【知的好奇心・探求心】 オリエンテーションセミナー II		グループワーク「自己紹介」「充実した2年間にするには？」	
		事前学習：学生便覧を読む(30分) 事後学習：本学に入学した目的をふりかえり、自分の将来像を描き、レポートにまとめる(60分)	
学習内容 4回		学習のポイント(事前事後の学習を含む) 4回	
【見識や幅広い視野】 フレッシュマンセミナー I		講演「ネットリテラシー」	

	事前学習：リテラシーの意味を調べる（30分） 事後学習：学習内容について、レポートにまとめる（60分）
学習内容 5 回	学習のポイント(事前事後の学習を含む) 5 回
【奉仕的精神や倫理観】 フレッシュマンセミナーⅡ	講演「地域貢献活動の意義」 事前学習：地域貢献活動とは何か調べる（30分） 事後学習：地域貢献活動の目的、意義、約束事等について学習内容をレポートにまとめる（60分）
学習内容 6 回	学習のポイント(事前事後の学習を含む) 6 回
【地域社会の課題】 社会人としての基礎を学ぶⅠ	講演「山梨の防災」 事前学習：山梨県の過去の災害について調べる（30分） 事後学習：学内の避難ルートを確認する。防災対策についてのレポートを作成する（60分）
学習内容 7 回	学習のポイント(事前事後の学習を含む) 7 回
【地域社会の課題】 社会人としての基礎を学ぶⅡ	講演「支えあるための食育－フードバンク山梨プロジェクト」 事前学習：フードバンクについて調べる（60分） 事後学習：貧困についてのレポートを作成する（60分）
学習内容 8 回	学習のポイント(事前事後の学習を含む) 8 回
【見識や幅広い視野】 キャリアを考える	講演「卒業生からのメッセージ」（職業理解と職業選択） 事前学習：興味のある仕事に関するHPを、3件以上閲覧する（60分） 事後学習：学習内容についてレポートにまとめ、自分の職業像を考える（60分）
学習内容 9 回	学習のポイント(事前事後の学習を含む) 9 回
【知的好奇心・探求心】 課題研究Ⅰ	教員が推奨する書籍や映像などを視聴、プレゼンテーションの作成・口頭発表 事前学習：書籍・ビデオ等の選択・調べ学習（30分） 事後学習：グループディスカッション後のレポートを作成する（120分）
学習内容 10 回	学習のポイント(事前事後の学習を含む) 10 回
【見識や幅広い視野】 データサイエンスと社会の繋がり	講演「データを起点としたものの見方、人間の知的活動を拠点としたものの見方」 ビックデータ、IoT、AI、ロボット 第4次産業革命、Society5.0、データ駆動型社会 事前学習：データサイエンスの意味を調べる（30分） 事後学習：学習内容について、レポートにまとめる（60分）
学習内容 11 回	学習のポイント(事前事後の学習を含む) 11 回
【見識や幅広い視野】 プレゼンテーションの発表	AI等最新技術の活用例調べ学習の成果発表、ディスカッション 事前学習：プレゼンテーションの準備（60分） 事後学習：グループディスカッション後のレポートを作成する（60分）
学習内容 12 回	学習のポイント(事前事後の学習を含む) 12 回
【見識や幅広い視野】 日常作法(マナー学習)	作法講座：基本所作を学ぶ

	事前学習：日本の伝統的な作法について調べる（30分） 事後学習：学習内容についてレポートにまとめる（60分）
学習内容 1 3 回	学習のポイント（事前事後の学習を含む）1 3 回
【知的好奇心・探求心】 【地域社会の課題】 自学自習 I（01～10） （自主学習支援）	自学自習システムの活用による基礎的な一般教養（自然科学、人文・社会科学）の知識や山梨の歴史・地理・産業・人物等に関する理解を深める。 自発的学習態度を育成する。
学習内容 1 4 回	学習のポイント（事前事後の学習を含む）1 4 回
【知的好奇心・探求心】 【地域社会の課題】 自学自習 II（11～20） （自主学習支援）	自学自習システムの活用による基礎的な一般教養（自然科学、人文・社会科学）の知識や山梨の歴史・地理・産業・人物等に関する理解を深める。 自発的学習態度を育成する。
学習内容 1 5 回	学習のポイント（事前事後の学習を含む）1 5 回
【奉仕的精神や倫理観】 【地域社会の課題】 地域貢献活動	地域貢献活動（実践活動） 事前学習：地域貢献活動先・内容を確認する 事後学習：実践報告のレポートを作成する
学習内容 1 6 回	学習のポイント（事前事後の学習を含む）1 6 回
【奉仕的精神や倫理観】 【地域社会の課題】 地域貢献活動	地域貢献活動（実践活動） 事前学習：地域貢献活動先・内容を確認する 事後学習：実践報告のレポートを作成する
学習内容 1 7 回	学習のポイント（事前事後の学習を含む）1 7 回
総括講義	各授業内容の振り返り
成績評価の方法・基準	
受講レポート35% ボランティア・パスポートの作成35%、 自学自習システムの到達度30% ※地域貢献活動は2ヶ所以上8時間以上行うこと	
教科書・参考文献	
関連資料配布 ボランティア・パスポート	
履修条件	
卒業必修	

山梨学院短期大学

3つのポリシーと履修系統図

食物栄養科 (栄養士コース)

教育理念 智と情と勇気をそなえ、実践を貴んで、社会に貢献する人間を育成する

- 教育目標1 深い知性、豊かな感性、高い品性を備えた人間の育成
- 知的好奇心、探究心をもって学ぶ姿勢の形成
 - 現代社会を生きるうえでの見識と幅広い視野の獲得
 - 芸術を通じた豊かな感性と健康な心身の形成
 - 人と社会に対する奉仕的精神、倫理観の醸成

- 教育目標2 時代の変化に対応し、創造性豊かに生きる人間の育成
- 国際化・情報化等の社会の進展に対応する力の形成
 - 日本文化の理解に立ち、異文化を尊重する心の形成
 - 地域社会の課題をとらえ、その解決に創造的に取り組む力の形成

- 教育目標3 食に関わる専門的な知識・技能・実践力を備えた栄養士の育成
- 栄養の専門職としての使命感の醸成
 - 栄養に関わる基礎理論の理解
 - 給食の運営と栄養教育に関する理論及び方法の習得
 - 栄養士としての実践力の形成



- 入学前学習
- 高等学校卒業までに獲得が期待される基礎的な学力と基本的な生活態度が身に付いている人
 - 専門分野への関心を有している人
 - 自己を表現する力を有している人
 - 主体的に考え行動し、多様な人々と協働しつつ学ぶ態度を有している人

一般教育基礎科目 (食物栄養科・保育科共通)	人文・社会科学分野	20PC-010 文学 20PC-018 経済学 20PC-020 新礼法	20PC-022 日本語表現 20PC-028 国際政治と子どもたち 20PC-032 知的生活の探求	20PC-036 児童文化・文学論 20PC-038 異文化コミュニケーション	20PC-042 法学(日本国憲法) 20PC-048 現代文化論	DP2 日本文化や異文化の理解を深め、国際的視点から物事を考えることができる。 DP3 豊かな感性と健康な心身の基礎的資質を獲得している。 DP4 言語的・数量的処理の方法や自然科学への理解を深め、論理的視点から物事を考えることができる。
	芸術・健康科学分野	20PC-050 絵画との対話 20PC-058 こころの科学 20PC-062 ショップデザイン	20PC-066 西洋音楽の世界 20PC-068 環境と健康	20PC-070 演劇入門 20PC-078 食生活学	20PC-082 無意識の世界 20PC-088 ライフスタイルと健康	
外国語	情報・自然科学分野	40PC-002 くらしと情報 40PC-008 生命科学A 40PC-012 クスリの生物学	40PC-016 情報科学 40PC-022 生命科学B 40PC-028 フード・サイエンスと健康	40PC-034 人間と教育 40PC-040 生物科学A 40PC-046 海の生物学	40PC-050 山梨の自然 40PC-056 生物科学B	DP2 日本文化や異文化の理解を深め、国際的視点から物事を考えることができる。 DP3 豊かな感性と健康な心身の基礎的資質を獲得している。
	保健体育	20PC-064 英語A 20PC-068 英会話A 20PC-072 フランス語A 20PC-076 日本語I 20PC-080 日本語特講A	20PC-084 英語B 20PC-088 英会話B 20PC-092 フランス語B 20PC-096 日本語II 20PC-100 日本語特講B	20PC-104 英語C 20PC-108 中国語A 20PC-112 日本語III	20PC-116 英語D 20PC-120 中国語B 20PC-124 日本語IV	
卒業要件	卒業要件	20PC-102 社会人基礎力育成講座I 20PC-104 基礎演習	20PC-106 社会人基礎力育成講座I 20PC-108 社会人基礎力育成講座II	20PC-110 社会人基礎力育成講座II 20PC-112 社会人基礎力育成講座II	20PC-114 社会人基礎力育成講座II	DP1 主体的に学ぶ姿勢をもち、地域社会の課題解決に取り組むことができる。
	学際(基礎科目含む)	20PC-118 家政学 20PC-122 情報処理演習 40-1205 食の科学	20PC-126 食文化論 20PC-130 レストランサービスI 20PC-134 レストランサービスII 20PC-138 レストランサービスIII	20PC-142 ホテルサービスI 20PC-146 ホテルサービスII 20PC-150 ビバレッジI 20PC-154 ビバレッジII 20PC-158 スイーツマイスターIII 20PC-162 スイーツマイスターII	20PC-166 レストランサービスIV 20PC-170 レストランサービスIV 20PC-174 スイーツマイスターI 20PC-178 スイーツマイスターII 40-2005 栄養と統計 40PC-200 情報処理演習II	DP2 日本文化や異文化の理解を深め、国際的視点から物事を考えることができる。 DP4 言語的・数量的処理の方法や自然科学への理解を深め、論理的視点から物事を考えることができる。
社会生活と健康	社会生活と健康	50-1005 社会生活と健康	50-1010 公衆衛生学総論			DP5 社会生活と健康との関わりや公衆衛生学に関する基本的な知識を有している
	人体の構造と機能		60-1005 人体の構造と機能 60-1010 栄養生理学 60-1015 栄養生理学実験	60-2005 生化学	60-2010 運動生理学 60-2015 生化学実験	DP6 人体の構造と機能に関する基本的な知識と技術を習得している
食品と衛生	食品と衛生	70-1005 食品学総論 70-1010 食品衛生学総論	70-1015 食品学各論 70-1020 食品学実験	70-2005 食品衛生学実験	70-2010 食品加工学実習	DP7 食品と衛生に関する基本的な知識と技術を習得している
	栄養と健康	80-1005 栄養学総論	80-1010 栄養学各論 80-1015 臨床栄養学総論	80-2005 臨床栄養学各論 80-2010 臨床栄養学実習	80-2015 栄養学各論実習	DP8 ライフステージと疾患に対応した栄養管理ができる
給食の運営	栄養の指導	90-1005 栄養指導論		90-2005 栄養教育論	90-2010 公衆栄養学 90-2015 栄養指導実習	DP9 栄養や健康の基本的な指導を行うことができる
	給食の運営	100-1005 調理学 100-1015 調理の基本I 100-1020 給食運営論 100-1025 食事設計実習	100-1030 調理の基本II 100-1035 給食運営実習I	100-2005 応用調理実習I	100-2010 応用調理実習II	DP10 給食の運営、調理に関する基本的な知識や技術を習得している
卒業要件	卒業要件		120-1005 卒業演習I	120-2005 卒業演習II	120-2010 卒業演習II	DP12 食生活や健康の問題について考え、口頭または文章によって論理的に表現することができる
	発展			120-2015 栄養士特講I	120-2020 栄養士特講II	DP11 実習および事前事後の指導を通じて、栄養士業務の実際を体験的に学び、栄養士としての実践力を身につけている
実習	実習		120-1005 給食運営実習III	120-2005 給食運営実習II 120-2010 給食運営実習IV		

総合的人間力

専門的知識

専門的実践力

本学が求める入学生像

教育課程編成の考え



卒業までに身に付けさせたい力

数値・データサイエンス・AI教育プログラムに該当する科目

山梨学院短期大学

3つのポリシーと履修系統図

食物栄養科 (パティシエコース)

教育理念 智と情と勇気をそなえ、実践を貴んで、社会に貢献する人間を育成する

教育目標1 深い知性、豊かな感性、高い品性を備えた人間の育成

- (1) 知的好奇心、探究心をもって学ぶ姿勢の形成
- (2) 現代社会を生きるうえでの見識と幅広い視野の獲得
- (3) 芸術を通じた豊かな感性と健康な心身の形成
- (4) 人と社会に対する奉仕的精神、倫理観の醸成

教育目標2 時代の変化に対応し、創造性豊かに生きる人間の育成

- (1) 国際化・情報化等の社会の進展に対応する力の形成
- (2) 日本文化の理解に立ち、異文化を尊重する心の形成
- (3) 地域社会の課題をとらえ、その解決に創造的に取り組む力の形成

3.教育目標 食に関わる専門的な知識・技能・実践力を備えた製菓衛生師の育成

- (1) 製菓に関わる専門職としての使命感の醸成
- (2) 製菓に関わる基礎理論の理解
- (3) 衛生管理と製菓技術に関する理論及び方法の習得
- (4) 製菓衛生師としての実践力の形成

AP
(入学受入れの方針)

CP
(教育課程編成方針)

DP
(卒業認定・学位授与方針)

高等学校卒業までに獲得が期待される基礎的な学力と基本的な生活態度が身に付いている人

専門分野への関心を有している人

自己を表現する力を有している人

主体的に考え行動し、多様な人々と協働しつつ学ぶ態度を有している人

入学前学習

一般教育基礎科目 (食物栄養科・保育科共通)	人文・社会科学分野	2APC-0101 文学 2APC-0102 経済学 2APC-0103 新礼法	2APC-0104 日本語表現 2APC-0105 国際政治と子どもたち 2APC-0106 知的生活の探求	2APC-0107 児童文化・文学論 2APC-0108 異文化コミュニケーション 2APC-0109 演劇入門	2APC-0110 法学(日本国憲法) 2APC-0111 現代文化論 2APC-0112 無意識の世界 2APC-0113 ライフスタイルと健康	DP2 日本文化や異文化の理解を深め、国際的視点から物事を考えることができる。 DP3 豊かな感性と健康な心身の基礎的資質を獲得している。
	芸術・健康科学分野	2APC-0201 絵画との対話 2APC-0202 こころの科学 2APC-0203 ショップデザイン	2APC-0204 西洋音楽の世界 2APC-0205 環境と健康	2APC-0206 演劇入門 2APC-0207 食生活学		DP4 言語的・数量的処理の方法や自然科学への理解を深め、論理的視点から物事を考えることができる。
外国語	情報・自然科学分野	4APC-0301 暮らしと情報 4APC-0302 生命科学A 4APC-0303 クスリの生物学	4APC-0304 情報科学 4APC-0305 生命科学B 4APC-0306 フード・サイエンスと健康	4APC-0307 人間と教育 4APC-0308 生物科学A 4APC-0309 海の生物学	4APC-0310 山梨の自然 4APC-0311 生物科学B	DP2 日本文化や異文化の理解を深め、国際的視点から物事を考えることができる。 DP3 豊かな感性と健康な心身の基礎的資質を獲得している。
	保健体育	2APC-0401 英語A 2APC-0402 英会話A 2APC-0403 フランス語A 2APC-0404 日本語I 2APC-0405 日本語特講A	2APC-0406 英語B 2APC-0407 英会話B 2APC-0408 フランス語B 2APC-0409 日本語II 2APC-0410 日本語特講B	2APC-0411 英語C 2APC-0412 中国語A 2APC-0413 日本語III	2APC-0414 英語D 2APC-0415 中国語B 2APC-0416 日本語IV	DP2 日本文化や異文化の理解を深め、国際的視点から物事を考えることができる。 DP3 豊かな感性と健康な心身の基礎的資質を獲得している。
卒業要件	(※一般教育基礎科目には開講学年は設定していません)					DP1 主体的に学ぶ姿勢をもち、地域社会の課題解決に取り組むことができる。
学際(基礎科目含む)	社会人基礎力育成講座I	2APC-1001 社会人基礎力育成講座I	2APC-1002 社会人基礎力育成講座II	2APC-1003 社会人基礎力育成講座II	2APC-1004 社会人基礎力育成講座II	DP2 日本文化や異文化の理解を深め、国際的視点から物事を考えることができる。 DP4 言語的・数量的処理の方法や自然科学への理解を深め、論理的視点から物事を考えることができる。
	基礎演習	2AP-0702 家政学	2AP-0705 食文化論 2AP-0710 レストランサービスI 2AP-0711 レストランサービスII 2AP-0712 レストランサービスIII	2AP-0706 ホテルサービスI 2AP-0707 ホテルサービスII 2AP-0708 ビバレッジI 2AP-0709 ビバレッジII 2AP-0716 スイーツマイスターIII 2AP-0701 保育学	2AP-0713 レストランサービスIV 2AP-0703 ショップデザイン 2AP-0714 スイーツマイスターI 2AP-0715 スイーツマイスターII 4APC-0603 情報処理演習II	DP5 衛生法規および公衆衛生学に関する基本的な知識を有している DP6 食品衛生学に関する基本的な知識と技術を習得している DP7 食品学に関する基本的な知識を有している DP8 栄養学に関する基本的な知識を有している DP9 経済・経営に関する基本的な知識を有している DP10 製菓・製パンの理論に関する基本的な知識を有している DP11 製菓・製パンの実習を通して技術を習得し、製菓衛生師としての実践力を身につけている
衛生法規・公衆衛生学	5P-1005 衛生法規	5P-1010 公衆衛生学総論	5P-2015 公衆衛生学各論			DP5 衛生法規および公衆衛生学に関する基本的な知識を有している
食品衛生学	6P-1005 食品衛生学総論	6P-1010 食品衛生学各論I	6P-2015 食品衛生学各論II	6P-2010 食品衛生学実験		DP6 食品衛生学に関する基本的な知識と技術を習得している
食品学	7P-1005 食品学総論	7P-1010 食品学各論				DP7 食品学に関する基本的な知識を有している
栄養学	8P-1005 栄養学総論	8P-1010 栄養学各論				DP8 栄養学に関する基本的な知識を有している
社会			9P-2015 社会			DP9 経済・経営に関する基本的な知識を有している
製菓理論	11P-1010 製菓理論I(洋菓子) 11P-1015 製菓理論III(和菓子)	11P-1040 製菓理論II(製パン) 11P-1045 製菓専門理論				DP10 製菓・製パンの理論に関する基本的な知識を有している
製菓実習	11P-1005 製菓基礎実習I(洋菓子) 11P-1015 製菓基礎実習III(和菓子)	11P-1020 製菓基礎実習II(製パン) 11P-1025 製菓専門実習I(洋菓子) 11P-1030 製菓専門実習III(和菓子) 11P-1035 製菓特別実習I	11P-2005 製菓専門実習II(製パン) 11P-2010 製菓専門実習IV(洋菓子)			DP11 製菓・製パンの実習を通して技術を習得し、製菓衛生師としての実践力を身につけている
卒業要件		11AP-100 卒業演習I	11P-2005 卒業演習II	11P-2000 卒業演習II		DP12 食生活や健康の問題について考え、口頭または文章によって論理的に表現することができる
発展			11P-2010 製菓衛生師特講I	11P-2015 製菓衛生師特講II		DP11 製菓・製パンの実習を通して技術を習得し、製菓衛生師としての実践力を身につけている
発展(実習)				11P-2015 製菓特別実習II 11P-2020 スイーツショップ実習		

総合的人間力

専門的知識

専門的実践力

本学が求める入学生像

教育課程編成の考え



卒業までに身に付けさせたい力

数理・データサイエンス・AI教育プログラムに該当する科目

山梨学院短期大学

3つのポリシーと履修系統図

保育科

教育理念 智と情と勇気をそなえ、実践を貴んで、社会に貢献する人間を育成する

- 教育目標1 深い知性、豊かな感性、高い品性を備えた人間の育成
- (1) 知的好奇心、探究心をもって学ぶ姿勢の形成
 - (2) 現代社会を生きるうえでの見識と幅広い視野の獲得
 - (3) 芸術を通じた豊かな感性と健康な心身の形成
 - (4) 人と社会に対する奉仕的精神、倫理観の醸成

- 教育目標2 時代の変化に対応し、創造性豊かに生きる人間の育成
- (1) 国際化・情報化等の社会の進展に対応する力の形成
 - (2) 日本文化の理解に立ち、異文化を尊重する心の形成
 - (3) 地域社会の課題をとらえ、その解決に創造的に取り組む力の形成

- 教育目標3
- (1) 児童福祉に関わる専門的な知識・技能・実践力を備えて保育士の育成
 - (2) 幼児教育に関わる専門的な知識・技能・実践力を備えた教師の育成
 - (3) 初等教育に関わる専門的な知識・技能・実践力を備えた教師の育成

AP
(入学者受入れの方針)

CP
(教育課程編成方針)

DP
(卒業認定・学位授与方針)

一般教育基礎科目 (食物栄養科・保育科共通)	人文・社会科学分野 2NFC-0101 文学 2NFC-0102 経済学 2NFC-0103 新礼法	2NFC-0104 日本語表現 2NFC-0105 国際政治と子どもたち 2NFC-0106 知的生活の探求	2NFC-0107 児童文化・文学論 2NFC-0108 異文化コミュニケーション 2NFC-0109 演劇入門	2NFC-0110 法学(日本国憲法) 2NFC-0111 現代文化論 2NFC-0112 無意識の世界 2NFC-0113 ライフスタイルと健康	DP2 日本文化や異文化の理解を深め、国際的視点から物事を考えることができる。 DP3 豊かな感性と健康な心身の基礎的資質を獲得している。
	芸術・健康科学分野 2NFC-0201 絵画との対話 2NFC-0202 こころの科学 2NFC-0203 ショップデザイン	2NFC-0204 西洋音楽の世界 2NFC-0205 環境と健康 2NFC-0206 食生活学	2NFC-0207 演劇入門 2NFC-0208 食生活学	2NFC-0209 山梨の自然 2NFC-0210 ライフスタイルと健康	DP4 言語的・数量的処理の方法や自然科学への理解を深め、論理的視点から物事を考えることができる。
	情報・自然科学分野 4NFC-0301 くらしと情報 4NFC-0302 生命科学A 4NFC-0303 クスリの生物学	4NFC-0304 情報科学 4NFC-0305 生命科学B 4NFC-0306 フード・サイエンスと健康	4NFC-0307 人間と教育 4NFC-0308 生物科学A 4NFC-0309 海の生物学	4NFC-0310 山梨の自然 4NFC-0311 生物科学B	DP2 日本文化や異文化の理解を深め、国際的視点から物事を考えることができる。 DP3 豊かな感性と健康な心身の基礎的資質を獲得している。
	外国語 2NFC-0401 英語A 2NFC-0402 英会話A 2NFC-0403 フランス語A 2NFC-0404 日本語I 2NFC-0405 日本語特講A	2NFC-0406 英語B 2NFC-0407 英会話B 2NFC-0408 フランス語B 2NFC-0409 日本語II 2NFC-0410 日本語特講B	2NFC-0411 英語C 2NFC-0412 中国語A 2NFC-0413 日本語III 2NFC-0414 日本語特講B	2NFC-0415 英語D 2NFC-0416 中国語B 2NFC-0417 日本語IV	DP2 日本文化や異文化の理解を深め、国際的視点から物事を考えることができる。 DP3 豊かな感性と健康な心身の基礎的資質を獲得している。
保健体育 2NFC-0501 体育理論 2NFC-0502 体育実技D	2NFC-0503 体育実技A 2NFC-0504 体育実技E	2NFC-0505 体育実技B 2NFC-0506 体育実技C	2NFC-0507 体育実技C	DP1 主体的に学ぶ姿勢をもち、地域社会の課題解決に取り組むことができる。 DP4 言語的・数量的処理の方法や自然科学への理解を深め、論理的視点から物事を考えることができる。	
卒業要件	4NFC-0601 社会人基礎力育成講座I 1C-1001 基礎演習 4NFC-0602 情報処理演習	4NFC-0603 社会人基礎力育成講座I 4NFC-0604 社会人基礎力育成講座II	4NFC-0605 社会人基礎力育成講座II 4NFC-0606 社会人基礎力育成講座II	DP1 主体的に学ぶ姿勢をもち、地域社会の課題解決に取り組むことができる。 DP4 言語的・数量的処理の方法や自然科学への理解を深め、論理的視点から物事を考えることができる。	
教職の意義	6C-1001 教育原理 6C-1002 社会福祉 6C-1003 保育原理 6C-1004 社会的養護I 6C-1005 発達心理学I	6C-1006 子ども家庭福祉 6C-1007 発達心理学II	6C-1008 保育職論 6C-1009 地域福祉	6C-1010 教育職論 6C-1011 臨床心理学 6C-1012 特別支援教育論 6C-1013 地域学校経営論	DP5 教育や福祉の理念や意識について理解し、教諭や保育士としての社会的使命と責任を自覚している DP6 教育や福祉の思想、歴史、制度、および幼児や児童の発達特性を理解している DP7 幼児や児童の発達の理解に立って、基本的な計画や環境設定ができる
教育・福祉の基礎理論	8C-1001 保育内容 健康 8C-1002 保育内容 人間関係 8C-1003 保育内容 言葉 8C-1004 子どもの保健	8C-1005 社会科教育法 8C-1006 保育内容総論 8C-1007 保育内容 環境 8C-1008 乳児保育I	8C-1009 算数科教育法 8C-1010 生活科教育法 8C-1011 音楽科教育法 8C-1012 図画工作科教育法 8C-1013 体育科教育法 8C-1014 保育内容 表現 8C-1015 インクルーシブ保育I 8C-1016 道徳教育の理論と方法 8C-1017 特別活動の理論と方法 8C-1018 教育方法論(小学校) 8C-1019 ICT活用の理論と方法 8C-1020 教育方法論(幼稚園) 8C-1021 子どもの健康と安全	8C-1022 国語科教育法 8C-1023 理科教育法 8C-1024 家庭科教育法 8C-1025 外国語科教育法 8C-1026 保育内容 音楽表現 8C-1027 保育内容 造形表現 8C-1028 保育内容 身体表現 8C-1029 保育内容 表現活動 8C-1030 社会的養護II 8C-1031 インクルーシブ保育II 8C-1032 乳児保育II 8C-1033 総合的な学習の時間の理論と方法 8C-1034 子どもの食と栄養 8C-1035 教職実践演習(幼・小)	DP8 教育や保育の指導法を理解し、基本的な指導・援助を行うことができる DP9 教育や福祉の相談や援助の方法についての知識を有している
教育・福祉の相談援助	9C-1001 子ども家庭支援の心理学 9C-1002 生徒指導・キャリア教育論 9C-1003 教育相談の基礎 9C-1004 子ども家庭支援論	9C-1005 子どもの理解と援助 9C-1006 子育て支援演習 9C-1007 子育て支援の理論と方法 9C-1008 在宅保育	9C-1009 書写 9C-1010 音楽III A	9C-1011 音楽III B	DP9 教育や福祉の相談や援助の方法についての知識を有している DP10 教科や基礎技能に関する基本的な知識や技能を習得している
教科・基礎教育	10C-1001 音楽I 10C-1002 図画工作 10C-1003 外国語(教職) 10C-1004 子どもと健康 10C-1005 子どもと人間関係 10C-1006 子どもと環境	10C-1007 国語 10C-1008 社会 10C-1009 算数 10C-1010 理科 10C-1011 生活 10C-1012 音楽II 10C-1013 図画工作II 10C-1014 家庭 10C-1015 体育 10C-1016 子どもと言葉 10C-1017 子どもと表現	10C-1018 書写 10C-1019 音楽III A	10C-1020 音楽III B	DP10 教科や基礎技能に関する基本的な知識や技能を習得している
卒業要件	11C-1001 幼稚園教育実習指導 11C-1002 幼稚園教育実習I	11C-1003 卒業演習I 11C-1004 卒業演習II 11C-1005 卒業演習II	11C-1006 卒業演習II 11C-1007 卒業演習II	11C-1008 卒業演習II	DP2 教育や福祉の問題について考え、口頭または文章によって論理的に表現することができる DP11 実習および事前事後の指導を通じて、現場における指導・援助全般実践的に体得し、現場での適切な指導・援助を行うことができる
実習	11C-1009 幼稚園教育実習指導 11C-1010 幼稚園教育実習I 11C-1011 保育実習指導I(保育所) 11C-1012 保育実習I(保育所) 11C-1013 保育実習指導I(施設)	11C-1014 保育実習指導II(保育所) 11C-1015 保育実習指導III(施設) 11C-1016 小学校教育実習指導 11C-1017 保育実習I(施設) 11C-1018 保育実習II(保育所) 11C-1019 保育実習III(施設)	11C-1020 保育実習指導II(保育所) 11C-1021 保育実習指導III(施設) 11C-1022 小学校教育実習指導 11C-1023 保育実習I(施設) 11C-1024 保育実習II(保育所) 11C-1025 保育実習III(施設)	11C-1026 小学校教育実習I 11C-1027 小学校教育実習II 11C-1028 幼稚園教育実習II	DP11 実習および事前事後の指導を通じて、現場における指導・援助全般実践的に体得し、現場での適切な指導・援助を行うことができる

総合的人間力

専門的知識

専門的実践力

- 高等学校卒業までに獲得が期待される基礎的な学力と基本的な生活態度が身に付いている人
- 専門分野への関心を有している人
- 自己を表現する力を有している人
- 主体的に考え行動し、多様な人々と協働しつつ学ぶ態度を有している人

入学前学習

本学が求める入学生像

教育課程編成の考え



卒業までに身に付けさせたい力

数理・データサイエンス・AI教育プログラムに該当する科目

山梨学院短期大学カリキュラム委員会数理・データサイエンス・AI教育推進（DAILIES）専門委員会規程

（設置）

第1条 山梨学院短期大学（以下、「本学」という。）に、本学カリキュラム委員会規程第1条第2項第2号に基づく数理・データサイエンス・AI教育（Approved Program for Mathematics, Data science and AI Smart Higher Education; MDASH）推進専門委員会（以下、「本専門委員会」という。）を置く。

2 本専門委員会は、DAILIES専門委員会と称する。

（目的）

第2条 本専門委員会は、本学学生の数理・データサイエンス・AIに関する関心を高めつつそれらを活用する基礎的及び実践的な能力を育成する教育プログラム（以下、「教育プログラム」という。）を体系的に推進・実施することを目的とする。

（組織）

第3条 本専門委員会の構成は、次のとおりとする。

- (1) 座長
- (2) 委員
- (3) その他学長が必要と認めた者

（任命）

第4条 本専門委員会の座長及び委員は、学長が任命する。

（任期）

第5条 本専門委員会の座長及び委員の任期は1年とし、再任を妨げない。

2 本専門委員会の座長及び委員は、本学カリキュラム委員会の委員長及び委員との重任を妨げない。

（任務）

第6条 本専門委員会は、次の事項を任務とする。

- (1) 教育プログラムに関する企画・実施・支援
- (2) 教育プログラムについての自己点検・評価に関する事項
- (3) 教育プログラムの情報公開に関する事項
- (4) その他、教育プログラムの実施に際し必要な事項

（開催）

第7条 本専門委員会は、本学カリキュラム委員会委員長または本専門委員会座長の招集により開催する。

（承認）

第8条 本専門委員会が審議した事項は、本学カリキュラム委員会及び拡大教授会の議を経て、学長の承認を得なければならない。

（事務）

第9条 本専門委員会の事務は、本学事務局が担当する。

（規程の改廃）

第10条 この規程の改廃は、本学カリキュラム委員会及び拡大教授会の議を経て、学長が決定する。

附 則

この規程は、2024年4月1日から施行する。

山梨学院短期大学自己点検・評価規程

(平成5年10月21日制定)

(趣旨)

第1条 この規程は、山梨学院短期大学（以下、「本学」という。）の教育水準の向上を図り、目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行うために必要な事項を定める。

(評価委員会)

第2条 本学に自己点検・評価委員会（以下、「評価委員会」という。）を置く。

- 2 評価委員会は本学の各科、各委員会及び各部の自己点検・評価を統括する。
- 3 評価委員会は第8条第2項に規定する報告を統括整理し、本学の自己点検・評価として取りまとめる。
- 4 評価委員会は、認証評価機関による認証評価に関することを統括する。
- 5 評価委員会は、相互評価を実施する場合には、これを統括する。
- 6 評価委員会は、外部からの評価についても、これを統括する。

(評価委員会の組織)

第3条 評価委員会は次の委員をもって組織する。

- (1) 委員長
- (2) 副委員長
- (3) 認証評価を受けようとする認証評価機関との連絡調整責任者 (Accreditation Liaison Officer ; ALO)
- (4) 第8条に規定する科長、委員長及び部長
- (5) その他学長が委嘱する委員

(委員の任期)

第4条 評価委員会の委員の任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。

(委員長等)

第5条 評価委員会の委員長は、学長がこれにあたる。

- 2 委員長は評価委員会を招集し、その議長となる。
- 3 評価委員会に副委員長を置く。
- 4 委員長が必要と認めるときは、副委員長がその職務を代行することができる。

(委員会の開催)

第6条 評価委員会は、委員の3分の2以上の出席がなければ、開くことができない。

(評価結果の報告)

第7条 評価委員会のもとに、この事業を円滑に実施するためのワーキンググループを置く。ワーキンググループについては別に定める。

(自己点検・評価の実施)

第8条 自己点検・評価は、第9条に規定する項目等にしたがって、関係する科、委員会及び部が実施する。

- 2 各科、各委員会及び各部は、自己点検・評価結果について、毎年度、評価委員会に報告書を提出するものとする。

(点検・評価項目)

第9条 自己点検・評価の項目は、認証評価を受けようとする認証評価機関が定めるものとする。

(点検・評価結果の活用)

第10条 各科、各委員会及び各部は、自己点検・評価結果、及び、認証評価機関による評価結果、並びに、外部からの評価結果をふまえ、教育研究活動等の改善に努めるものとする。

(事務)

第11条 評価委員会に関する事務は、本学事務局が担当する。

(規程の改廃)

第12条 この規程の改廃は、拡大教授会の議を経て、学長が決定する。

附 則

この規程は、平成5年10月21日から施行する。

附 則

この規程は、平成7年10月26日から施行する。

附 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、2019年6月27日から施行する。

大学等名	山梨学院短期大学	申請レベル	リテラシーレベル
教育プログラム名	DAILIES (Data science and AI Literacy for Excellent Specialists Program)	申請年度	令和 6 年度



DAILIES (Data science and AI Literacy for Excellent Specialists Program)

山梨学院短期大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラムの概要

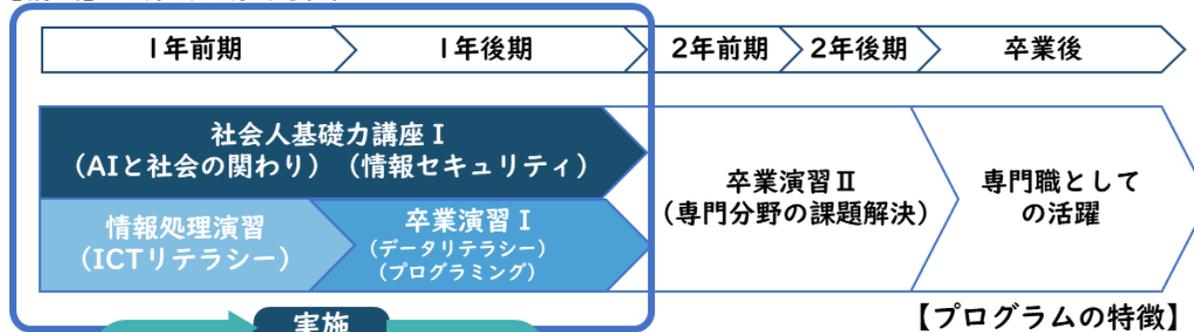
【プログラム概要】

食物栄養科・保育科に在籍する全ての学生を対象とした数理・データサイエンス・AI教育プログラムとして開設する。本プログラムは「社会人基礎力育成講座Ⅰ（必修科目）」「卒業演習Ⅰ（必修科目）」「情報処理演習」の3科目で構成され、データサイエンスやAIに関する関心を高め、利活用のための基礎的な能力を育成することを目的とする。山梨学院短期大学は、栄養士、製菓衛生師、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭等の専門職を養成している。学生たちが卒業後も「食と健康」「児童福祉と教育」の専門分野においてこのプログラムで学んだことを活用していくことを願い、本プログラムを**DAILIES (Data science and AI Literacy for Excellent Specialists Program)**と呼ぶ。

【プログラムの目的（身に付けられる能力）】

- ・データサイエンス・AIに関する基礎的な知識・スキルを習得する。
- ・データサイエンス・AIの日常生活や社会における利活用の実際を知る。
- ・データサイエンス・AIに関する基礎的な知識・スキルを、食と健康、児童福祉と教育の専門職の分野に活用する。

【構成】※枠内が修了要件



食と健康 × データサイエンス・AI教育

児童福祉と教育 × データサイエンス・AI教育



【プログラムの特徴】

- ◆小グループでの学び
 - ✓ 動画配信を活用した小グループでの演習形式による学び
 - ✓ プレゼンテーションやディスカッションを軸とした協働学習
- ◆専門職としてのデータサイエンス
 - ✓ 本プログラムで学んだことを「卒業演習Ⅱ（必修科目）」における卒業レポート作成に活用
 - ✓ 専門職の現場で活用することを目的としたプログラミング学修
- ◆より良いプログラムへの改善
 - ✓ 学生・卒業生・就職先と連携したプログラム改善の仕組み（授業評価アンケート、卒業生調査、就職先調査、学外助言評価委員会）
 - ✓ 全学的な自己点検評価の仕組み

改善

- ・ DAILIES専門委員会によるプログラムの改善・進化
- ・ カリキュラム委員会による教育課程編成の見直し・改善
- ・ FD委員会による教職員研修会
- ・ 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム関東・首都圏ブロック協力校が開催する「授業設計研究会」に参加し情報収集

評価

- ・ DALIES専門委員会による自己点検・評価
- ・ FD委員会による授業評価
- ・ 就職・キャリア支援委員会による卒業生および就職先調査
- ・ 学外助言評価委員会による学外有識者の意見聴取
- ・ 自己点検・評価委員会による全学的自己点検・評価